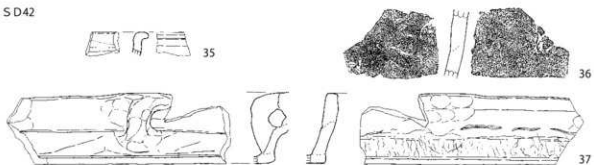
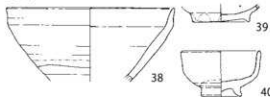


SD42



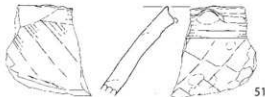
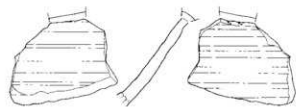
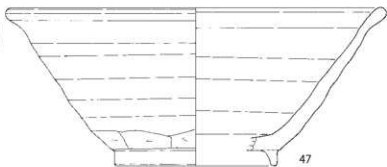
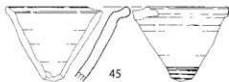
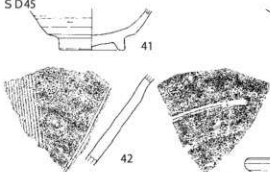
SD43



SD46



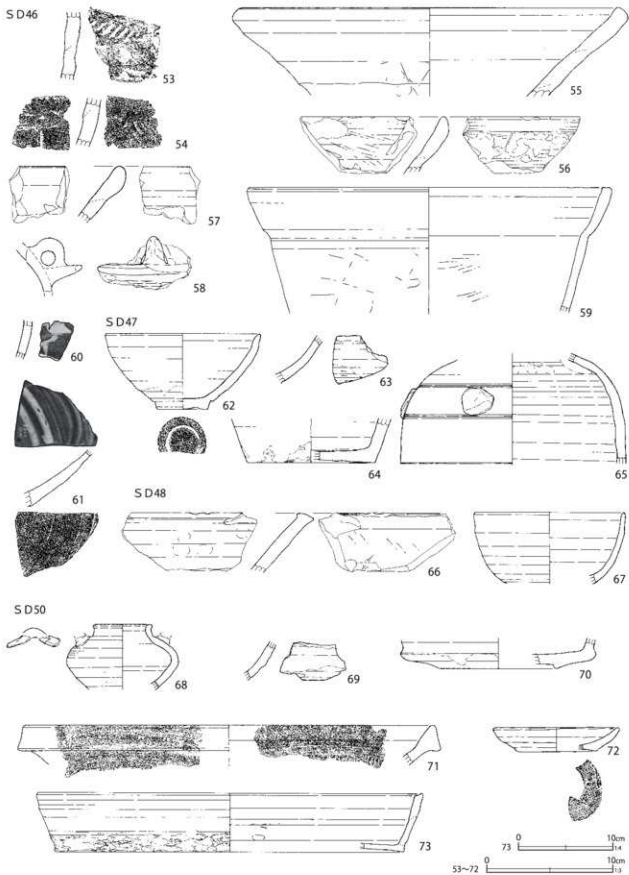
SD45



35~51 0 10cm

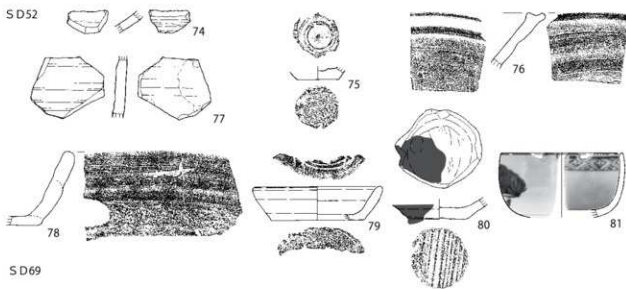
52 0 10cm

第176图 沟跡出土遺物(3)

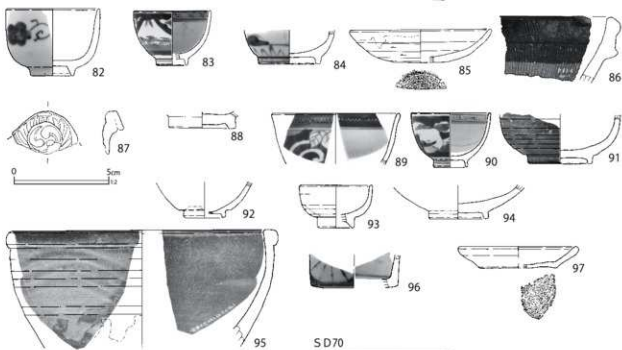


第177図 溝跡出土遺物(4)

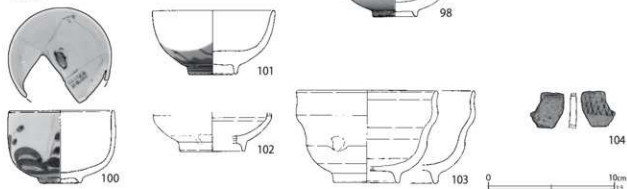
SD52



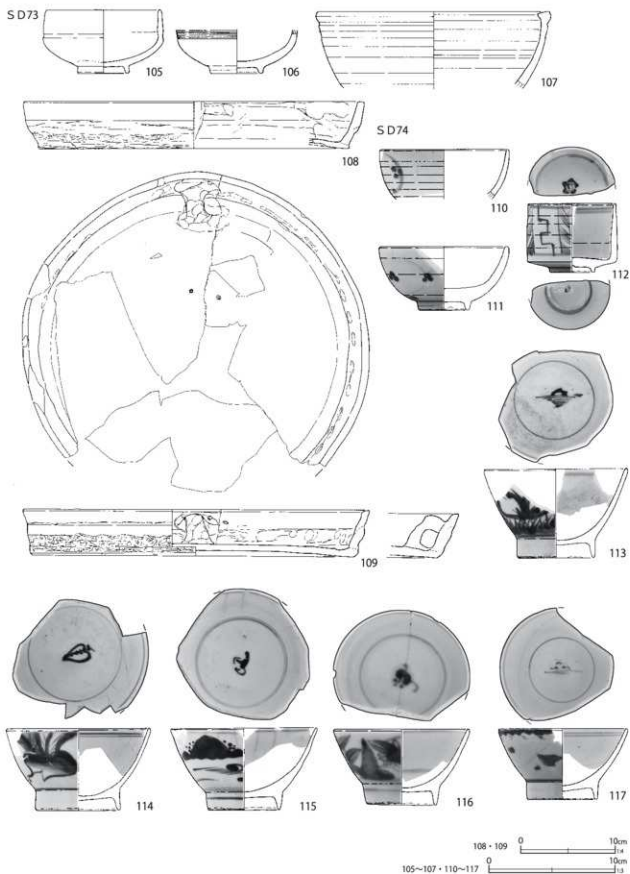
SD69



SD73

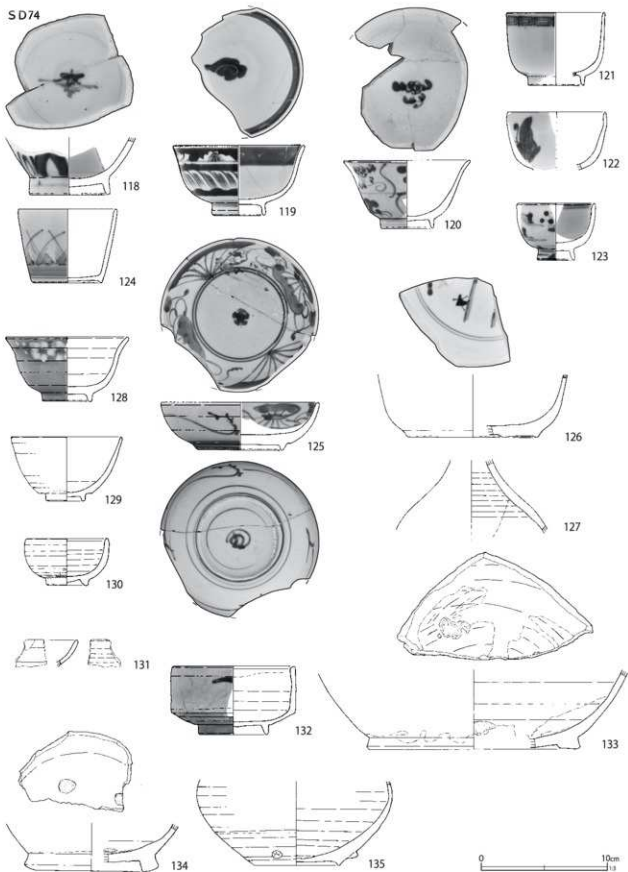


第178图 溝跡出土遺物(5)



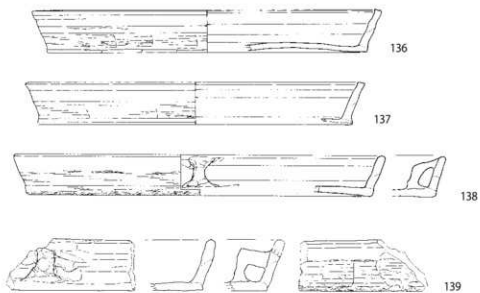
第179図 溝跡出土遺物(6)

SD74

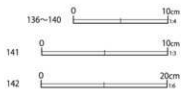
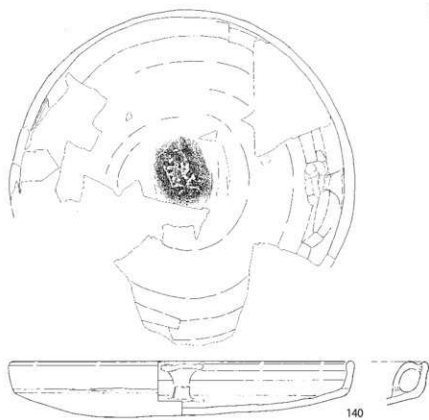
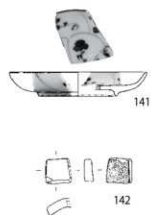


第180图 溝跡出土遺物 (7)

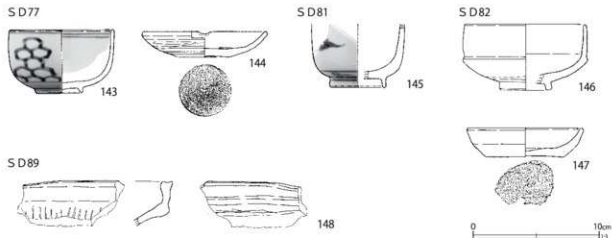
SD74



SD75



第181図 溝跡出土遺物(8)



第182図 溝跡出土遺物(9)

施軸する。77は古瀬戸の播鉢である。内外面に灰軸を施軸する。後期様式の製品であり、15世紀前葉の所産である。75は瀬戸美濃系陶器の茶入である。大窯段階の製品と考えられる。78は焙烙である。79・80はかわらけである。79の底部は糸切である。80の底部には板目状瓦痕が認められ、煤が付着する。灯明皿として使用されたものと考えられる。81は肥前系磁器の碗である。内外面に染付を施す。18世紀後葉から19世紀初頭の所産である。

第69号溝跡(第159・161・178・185図)

K・L・M-20グリッドに位置する。直線に走る溝であり、両端部は調査区外へと延びる。規模は、遺存値で、検出全長18.00m、幅0.79~1.02m、深さ0.55~0.85mである。走行方位はN-3°-Wを示す。断面形態は、逆台形を呈する。第73・74・76・79号溝跡、第117号井戸跡と重複し、これを壊している。第70号溝跡と重複し、これに壊されている。

溝跡の南側より、杭状の木製品が立位で出土している。

出土遺物は、第178・185図に示した。88は天目茶碗である。17世紀前葉から中葉の所産である。89は肥前系磁器の碗である。内外面に染付を施す。19世紀前葉の所産である。82は瀬戸美濃系磁器の碗である。外面に酸化コバルトによる染付を施す。

19世紀後葉以降の所産である。96は肥前系磁器の碗である。内外面に染付を施す。18世紀後葉の所産である。90は肥前系磁器の坏である。内外面に染付を施す。19世紀前葉から中葉の所産である。83は肥前系磁器の坏である。内外面に染付を施す。19世紀中葉の所産である。84は肥前系磁器の御神酒徳利である。外面に染付を施す。18世紀後葉から末葉の所産である。85は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。内外面に柿軸を施軸する。18世紀後葉の所産である。86は陶器の播鉢である。内外面に柿軸を施軸する。19世紀以降の所産である。91は瀬戸美濃系陶器の碗である。内面に灰軸、外面に鉄軸を施軸する。18世紀中葉から後葉の所産である。92は、京都信楽系陶器の碗である。内外面に透明釉を施軸する。18世紀末から19世紀初頭の所産である。94は瀬戸美濃系陶器の碗である。内外面に灰軸を施軸する。18世紀代の所産である。95は肥前系陶器の片口鉢である。17世紀後葉から18世紀前葉の所産である。97はかわらけである。底部は回転糸切である。87はミニチュアの土製品である。型合わせによって成形される。18世紀以降の所産である。159は鉄製の刃物の切っ先である。160は鉄製品であるが器種は不明である。

第70号溝跡(第159・160・162・178図)

M-20・21グリッドに位置する。鍵の手状に走

る溝である。規模は、全長12.20m、幅0.34～0.50m、深さ0.12～0.17mである。走行方位は南北方向N-3°-W、東西方向N-84°-Wを示す。断面形態は、逆台形を呈する。第69号溝跡と重複し、これを壊している。第80・81号溝跡と重複し、これに壊されている。

出土遺物は、第178図に示した。98は瀬戸美濃系陶器の碗である。内外面に灰釉を施軸する。18世紀後葉の所産である。99は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。内外面に柿釉を施軸する。重ね焼き痕が認められる。18世紀後葉から19世紀前葉の所産である。

第73号溝跡 (第163・164・178・179図)

L-17～20グリッドに位置する。規模は、遺存値で、検出全長27.34m、幅0.20～0.48m、深さ0.04～0.20mである。走行方位はN-90°を示す。断面形態は、碗形を呈する。第74号溝跡、第116号井戸跡と重複し、これに壊されている。

近接して位置する、第71～74・75号溝跡と並走する。

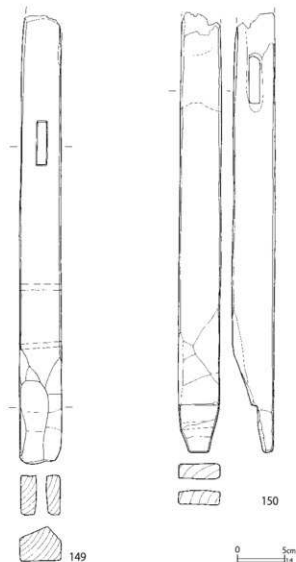
溝跡の中央部周辺より、近世の遺物がまわって出土した。

出土遺物は、第178・179図に示した。100・101・103は、肥前系磁器の碗である。100は内外面に染付を施す。18世紀後葉の所産である。101は内外面に染付を施す。18世紀代の所産である。103は17世紀後葉から18世紀前葉の所産である。102は肥前系磁器の瓶類である。104～106は瀬戸美濃系陶器の碗である。104は内外面に長石釉を施軸し、鉄絵を施す。17世紀初頭から前葉の所産である。105は内外面に灰釉を施軸する。18世紀前葉から中葉の所産である。106は内外面灰釉を施軸する。18世紀中葉から後葉の所産である。107は瀬戸美濃系陶器の片口鉢である。108・109は焙烙である。

第74号溝跡

(第163・165・166・179・180・181図)

SD1



第183図 溝跡出土遺物 (10)

L-17～20グリッドに位置する。直線に走る溝であり、東側端部は調査区外へと延びる。規模は、遺存値で、検出全長16.44m、幅0.35～0.55m、深さ0.16～0.23mである。走行方位はN-90°を示す。断面形態は、箱形を呈する。第75号溝跡と重複し、これを壊している。第73号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

近接する第70～73・75号溝跡とほぼ並走する。溝跡の中央部より、近世の遺物が大量に出土している。

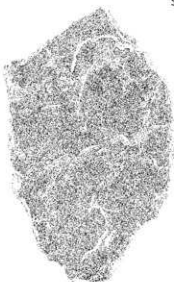
出土遺物は、第179～181図に示した。110～

SD1



151

SD15



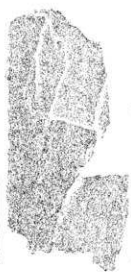
152



明
通
照
八
月
日



153



154

正
月
七
日
慶
永
十
八
年

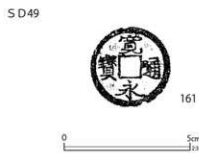
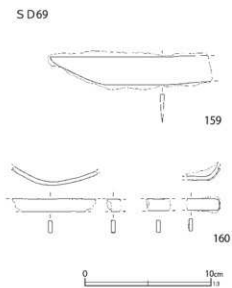
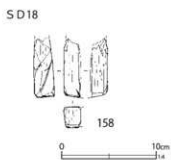
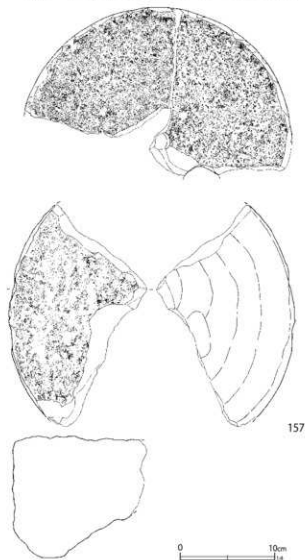
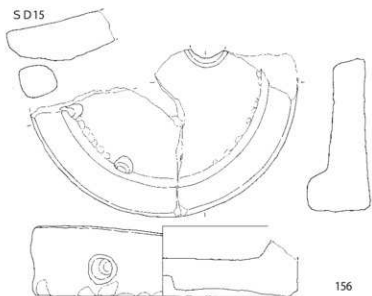


155

光
明
真
言
正
和
十

0 10mm 15

第184図 溝跡出土遺物 (11)



第185図 溝跡出土遺物 (12)

第14表 溝跡出土遺物観察表 (第174～185図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	-	[0.6]	-	-	5	良好	灰白	中国景徳鎮窯系 内外面施釉・飛付15C後～16C前	
2	陶器	縁軸小皿	(10.7)	[1.5]	-	IK	5	普通	灰白	古瀬戸 内外面灰釉 後期様式 15C前	
3	陶器	蓋	(6.0)	[1.8]	-	I	20	良好	にぶい黄橙	内外面施釉 外面トビガンナ状施文 行平の蓋19C中～後	
4	瓦質土器	内耳鍋	(30.4)	[6.3]	-	ACEIK	5	良好	にぶい埋	外面煤付着 小破片からの反転復元	
5	瓦質土器	釜	(14.4)	[4.9]	-	ACEIK	5	良好	灰黄褐	燻す 胎土粉質	
6	磁器	碗	-	[2.2]	-	-	5	良好	白	白磁 中国南部系 内外面施釉 11C～12C	
7	磁器	碗	-	[3.6]	-	K	5	良好	灰白	青磁 中国龍泉窯系 内外面青磁釉 14Cか	
8	磁器	碗	-	[2.9]	-	I	5	良好	灰白	青磁 中国龍泉窯系 内外面青磁釉 14C～15C	
9	磁器	椀花皿	(12.2)	3.1	(6.0)	IK	10	普通	灰	青磁 中国龍泉窯系 内外面青磁釉 内面施文破断面に被熱(黒化) 14C後～15C前	
10	陶器	盤	-	[2.3]	-	HIK	5	良好	灰白	古瀬戸 内面灰釉刷毛塗 後期様式14C後～15C前	
11	陶器	天目茶碗	(12.4)	[5.3]	-	K	25	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 外面下位鉄化粧 大冢段階 16C後	
12	陶器	端反皿	-	[1.7]	-	E	5	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 大塚期 15C末～16C前	
13	陶器	皿	10.8	2.0	6.3	I	60	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰石釉・目跡17C初 (志野丸皿)	26-8
14	陶器	花瓶	-	[7.2]	-	E	20	普通	灰白	古瀬戸 外面鉄釉・ヘラ彫り施文 中期様式 14C前	
15	陶器	播鉢	(31.0)	[3.5]	-	IK	10	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面精釉 大塚段階 16C後	
16	瓦質土器	播鉢	-	[5.5]	-	EGIK	5	普通	灰白	内面播目 燻す	
17	陶器	甕	-	[8.4]	-	I	5	良好	灰白	常滑 内外面「ナ」 断面・表裏面を二次使用(転用底具)	
18	瓦質土器	鉢	(22.8)	[4.7]	-	CEIK	10	普通	褐灰	内外面割離多 口縁部二次研磨 小形 燻す	
19	瓦質土器	内耳鍋	-	[5.2]	-	EIK	5	良好	灰白	燻す	
20	瓦質土器	焙烙	(35.0)	[4.9]	-	CHK	20	良好	灰白	外面煤付着 燻す	
21	かわらけ	小皿	-	[2.9]	5.2	CEHK	55	普通	にぶい埋	底部 糸切痕(右)	
22	かわらけ	小皿	-	[2.6]	5.2	CEHK	70	普通	浅黄橙	№10 底部糸切痕(左) 板目状圧痕	
23	かわらけ	小皿	10.0	2.6	6.0	CFHK	70	普通	浅黄橙	№12 底部糸切痕(左) 胎土砂質	
24	かわらけ	小皿	(10.4)	[2.6]	(6.0)	CHHK	30	良好	浅黄橙	底部糸切痕 胎土砂質	27-1
25	瓦	隅切瓦	長9.6幅[9.7]厚2.1高[3.5]	-	-	CEHI	-	良好	灰白	上面ヘラナゲ 下面布目圧痕	27-2
26	陶器	茶碗	-	[5.1]	-	AE	5	良好	浅黄橙	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 16C末～17C前	27-3
27	陶器	瓶類	-	[7.0]	-	EIK	5	良好	黄橙	外面鉄釉 17C前	
28	陶器	播鉢形小鉢	-	[4.0]	(5.4)	EK	5	良好	にぶい黄橙	古瀬戸 内面上位鉄釉 使用により下位摩耗 後期様式 15C	
29	磁器	杯	(5.9)	2.8	2.4	-	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面帯形 19C後	
30	磁器	杯	-	[3.1]	2.6	-	35	良好	白	肥前系 内外面施釉 18C	27-4
31	瓦質土器	内耳鍋	-	[4.3]	-	ACHIK	5	良好	灰黄褐	燻す	27-5
32	瓦質土器	内耳鍋	-	[3.8]	-	CEHK	5	良好	にぶい埋	底部ヘラナゲ 丸底 外面係かへ煤付着	27-6
33	瓦質土器	火鉢	-	[5.3]	-	ACFHI	5	良好	にぶい埋	外面スタンプ文 把手欠損 外面下位煤付着 燻す 18C後～19C	
34	瓦質土器	火鉢	-	[5.8]	-	ACDIK	5	良好	灰白	外面トビガンナ状施文 一部ミガキ 燻す 19C	27-7
35	陶器	香炉	-	[1.8]	-	DE	5	良好	灰白	内外面鉄釉	
36	瓦質土器	甕	-	[5.3]	-	DEIK	5	良好	褐灰	常滑 内面摩耗(使用による) 近世か	
37	瓦質土器	焙烙	-	5.6	-	CHK	5	普通	にぶい埋	底部シワ状痕 やや酸化炭焼成 内外面煤付着	
38	陶器	天目茶碗	(13.0)	[5.8]	-	K	15	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 大塚段階 16C後	
39	陶器	碗	-	[1.4]	4.4	K	20	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C前	27-8
40	陶器	杯	(6.0)	3.6	(3.2)	IK	45	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 18C	
41	陶器	天目茶碗	-	[3.3]	5.0	K	25	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C後	
42	陶器	播鉢	-	[7.2]	-	EGK	5	良好	灰白	古瀬戸 内外面精釉 内面播目 後期様式 15C	
43	陶器	卸皿	-	[1.5]	(8.0)	I	15	良好	灰白	古瀬戸 底部糸切痕 内外面鉄釉 内面卸目 中期様式 14C	27-9
44	陶器	平碗	-	[3.1]	-	IK	5	普通	灰白	古瀬戸 内外面鉄釉 後期様式 14C後～15C	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	作成	色調	備考	図版
45	陶器	折縁深皿	-	[5.8]	-	I	5	良好	灰白	古瀬戸 内外面灰釉 中期様式 13C末～14C前	
46	陶器	瓶頸	-	[10.6]	-	DK	15	普通	灰白	古瀬戸 外面灰釉 後期様式 14C後～15C	
47	陶器	片口鉢	(29.1)	12.5	(12.7)	DEIK	20	良好	灰	常滑 内面下位少し摩耗(使用による) 漆継ぎ 帆 13C前	
48	陶器	片口鉢	-	[7.0]	-	DE	5	普通	黄灰	常滑 破損部の一部を二次使用(研磨) 13C	
49	陶器	片口鉢	-	[4.9]	-	DEHI	5	普通	灰白	常滑 内面一部摩耗 13C	27-10
50	陶器	片口鉢	-	[3.8]	-	ACIK	5	良好	灰白	常滑 外面後世の傷多い 13C	
51	陶器	片口鉢	-	[7.1]	-	EIK	5	良好	赤	常滑 内外面ヘラナゲ 片口部遺存 内面使用に より若干摩耗 16C前	
52	陶器	甕	(44.0)	[7.5]	-	AIK	10	良好	明赤褐色	常滑	
53	陶器	甕	-	[5.3]	-	GHIK	5	良好	灰白	瀬美 外面タタキ 12C後～13C初	
54	陶器	甕	-	[3.9]	-	GIK	5	良好	灰白	瀬美 外面タタキ	
55	瓦質土器	鉢	(29.8)	[7.0]	-	CGIK	20	普通	灰白	内面割離しい	
56	瓦質土器	鉢	-	[4.5]	-	ADEIK	5	良好	にぶい橙	外面割離多い	
57	瓦質土器	鉢	-	[5.0]	-	ACEIK	5	良好	灰	燻す	
58	瓦質土器	釜	-	[4.2]	-	CEIK	5	普通	灰	燻す	
59	瓦質土器	内耳鍋	(28.5)	[10.0]	-	EHIK	10	良好	にぶい黄褐色	燻す	
60	陶器	碗	-	[3.1]	-	I	5	良好	白灰	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C前	
61	陶器	鉢	-	[4.6]	-	IK	5	良好	暗灰褐色	肥前系 内面刷毛目軸	
62	陶器	天目茶碗	(12.0)	5.9	3.8	IK	15	良好	灰白	古瀬戸 内外面鉄釉 後期様式 14C末～15C初	
63	陶器	平碗	-	[3.8]	-	HK	5	普通	灰黄	古瀬戸 内外面鉄釉 後期様式 14C後～15C	
64	陶器	瓶子	-	[3.6]	(10.1)	GIK	10	良好	灰白	古瀬戸 外面灰釉	27-11
65	陶器	瓶子	-	[8.7]	-	I	25	良好	灰白	古瀬戸 外面灰釉 沈線施文	
66	瓦質土器	鉢	-	[4.5]	-	ACEHIK	5	良好	にぶい橙		27-12
67	陶器	碗	(11.7)	[5.6]	-	HI	25	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C	
68	陶器	水注	(4.3)	[5.2]	-	GI	35	良好	にぶい橙	外面鉄釉	
69	陶器	天目茶碗	-	[3.4]	-	K	5	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C前	
70	陶器	香炉	-	[2.4]	(9.3)	EHI	5	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面鉄釉 17C	
71	陶器	播鉢	(32.3)	[3.1]	-	DEIK	10	良好	褐灰	丹波系 内面窪目 17C中～後	
72	かわらけ	小皿	(9.7)	1.9	(6.0)	CHIK	15	普通	にぶい橙	底部糸切痕 胎土砂質	
73	瓦質土器	焙烙	(40.4)	6.2	(36.8)	CIK	20	普通	にぶい黄褐色	砂目底 外面下位シワ状痕 外面・内面煤付 着 燻す	
74	陶器	盤類	-	[1.7]	-	EIK	5	良好	灰白	古瀬戸 内外面灰釉(内面下位刷毛塗) 後期様 式 14C後～15C前	
75	陶器	茶入	-	[1.0]	3.2	I	10	普通	灰白	瀬戸美濃系 底部糸切痕 外面鉄釉の一部 大窯 煎か	
76	陶器	播鉢	-	[4.4]	-	H	5	良好	淡黄	古瀬戸 内外面灰釉(刷毛塗り状) 内面窪目 後 期様式 15C前	
77	陶器	瓶頸	-	[4.9]	-	IK	5	良好	灰白	古瀬戸 外面灰釉(一部剥落)	
78	瓦質土器	焙烙	-	5.8	-	ACIK	5	良好	灰白	底部シワ状痕 燻す	
79	かわらけ	小皿	(10.0)	2.6	(7.4)	ACHIK	30	良好	浅黄褐色	底部糸切痕 胎土砂質 歪みあり	
80	かわらけ	小皿	-	[1.7]	4.6	ACHK	90	良好	灰白	底部板目状圧痕 煤付着	27-13
81	磁器	碗	(9.5)	[5.1]	-	-	15	良好	白	肥前系 内外面施釉 染付 18C後～19C初	28-1
82	磁器	碗	(7.3)	5.3	3.2	-	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化 ^{Ca} 染付 19C後以降	
83	磁器	坏	(6.0)	4.3	(2.4)	-	45	良好	灰白	肥前系 内外面施釉 染付 19C中	
84	磁器	御神酒徳利	-	[2.7]	(4.8)	-	10	良好	灰白	肥前系 外面施釉 染付 18C後～末	
85	陶器	灯明皿	(11.1)	2.6	(4.3)	K	35	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位抜き取り 18C後	28-2
86	陶器	播鉢	-	[5.2]	-	DEI	5	普通	にぶい赤褐色	内外面柿釉 内面窪目 19C後以降	
87	土製品	ミニチュア	幅[3.5]長[2.3]厚[1.1]	-	-	EHIK	5	普通	灰白	瓦質 前後型合わせ成形 燻す 18C以降	27-3
88	陶器	天目茶碗	-	[1.3]	(5.2)	I	25	良好	浅黄褐色	瀬戸美濃系 内面鉄釉 17C前～中	
89	磁器	碗	(10.0)	[4.0]	-	I	15	良好	白	肥前系 内外面施釉 染付 19C前	
90	磁器	坏	(6.2)	4.3	2.7	-	45	良好	白	肥前系 内外面施釉 染付 19C前～中	
91	陶器	碗	-	[3.9]	5.0	EIK	30	良好	灰白	№1 瀬戸美濃系 内面灰釉 外面鉄釉 18C中～ 後	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
92	陶器	碗	-	[3.9]	(3.4)	III	25	良好	灰白	京都信楽系 内外面透明釉 18C末～19C初	28-4
93	陶器	坏	(5.6)	3.4	(2.7)	I	45	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 少量の煤付着	
94	陶器	碗	-	[2.7]	4.7	I	40	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C(煤付)	
95	陶器	片口鉢	(20.8)	[9.2]	-	EK	10	良好	にぶい橙	肥前系 内外面刷毛目釉 17C後～18C前	
96	磁器	碗	-	[2.5]	-	IK	20	良好	灰白	肥前系 内外面施釉 染付 18C後	
97	かわらけ	小皿	(9.2)	1.7	(6.0)	CHK	20	良好	灰白	底部糸切痕 胎土砂質	
98	陶器	碗	(8.8)	4.8	3.4	G	80	良好	浅黄	No.1 瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C後	
99	陶器	灯明皿	9.8	2.1	4.5	HK	98	良好	浅黄橙	No.3 瀬戸美濃系 内外面施釉 外面下位拭き取り 重ね焼き痕 18C後～19C前	
100	磁器	碗	(8.2)	5.7	3.1	-	65	良好	白	肥前系 内外面施釉 染付 18C後	28-5
101	磁器	碗	(9.5)	5.1	3.7	-	50	良好	白	肥前系 内外面施釉 染付 18C	
102	磁器	瓶類	-	[3.1]	(5.0)	-	20	良好	白	No.60 肥前系 外面施釉	28-6
103	陶器	碗	(11.0)	7.3	(5.2)	IK	40	良好	にぶい橙	肥前系 内外面刷毛目釉 17C後～18C前	28-7
104	陶器	碗	-	[2.9]	-	EK	5	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面長石釉 鉄絵 17C初～前	
105	陶器	碗	(9.0)	5.0	4.1	I	45	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C前～中	28-8
106	陶器	碗	-	[3.5]	(4.2)	I	20	良好	明褐色	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄釉 灰釉掛け合い 18C中～後	
107	陶器	片口鉢	(18.4)	[6.0]	-	IK	15	良好	明黄褐色	No.15・41 瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C	
108	瓦質土器	焙烙	(36.0)	5.0	(33.0)	CHK	15	普通	褐色	シワ状痕	
109	瓦質土器	焙烙	36.3	5.0	34.0	CHK	75	良好	灰白	シワ状痕 煤付着 補修痕 燻す	
110	磁器	碗	(10.0)	[3.9]	-	-	20	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C中～後	
111	磁器	碗	(9.9)	5.0	3.9	-	65	良好	灰白	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C中～後	28-9
112	磁器	碗	(6.9)	5.4	3.5	-	35	良好	灰白	No.20 肥前系 内外面施釉 染付 18C後	
113	磁器	碗	(11.4)	7.0	6.0	-	60	良好	灰白	No.12 肥前系 内外面施釉 染付 18C末	28-10
114	磁器	碗	11.2	6.5	6.8	-	75	良好	灰白	No.8・17 肥前系 内外面施釉 染付 18C末	28-11
115	磁器	碗	(11.6)	6.5	5.7	-	60	良好	灰白	No.10 瀬戸美濃系 内外面施釉 染付 19C初	28-12
116	瀬戸美濃系	碗	10.8	6.0	5.4	-	60	良好	白	No.9・11 瀬戸美濃系 内外面施釉 染付 19C初	29-1
117	磁器	碗	(10.1)	5.6	5.5	-	55	良好	灰白	No.1・2 肥前系 内外面施釉 染付 18C末～19C初	29-2
118	磁器	碗	-	[4.6]	6.3	-	60	良好	灰白	No.16 瀬戸美濃系 内外面施釉 染付 19C初	29-4
119	磁器	碗	(10.2)	5.6	4.1	-	60	良好	白	No.66 肥前系 内外面施釉 染付 19C前	29-5
120	磁器	碗	(9.8)	5.4	4.0	-	45	良好	灰白	No.21 瀬戸美濃系 内外面施釉 染付 19C初	29-7
121	磁器	碗	(7.7)	[5.8]	(4.2)	-	30	良好	灰白	No.59 瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 19C前	30-1
122	磁器	碗	(7.6)	[4.6]	-	-	20	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面木型 打込施文 染付 19C中	30-2
123	磁器	碗	(6.0)	4.5	2.9	-	25	良好	灰白	No.24 瀬戸美濃系 内外面施釉 染付 19C前～中	
124	磁器	猪口	(7.8)	5.9	5.4	-	40	良好	白	No.85 肥前系 内外面施釉 外面染付 18C前～中	
125	磁器	皿	12.5	3.8	6.7	-	80	良好	灰白	No.76 肥前系 内外面施釉 染付 18C	29-3
126	磁器	鉢	-	[5.0]	(10.2)	-	20	良好	灰白	No.19 肥前系 内外面施釉(外面青磁釉)・内面 染付 18C後～19C前	29-6
127	磁器	徳利	-	[6.3]	-	-	10	普通	白	No.61 肥前系 外面施釉 17C後	29-8
128	陶器	碗	(9.5)	5.1	(3.9)	-	45	良好	浅黄橙	No.30 瀬戸美濃系 内外面施釉(内面白化粧) 外 面鉄釉 白盛絵付 19C前	
129	陶器	碗	(8.8)	5.1	3.1	IK	50	良好	浅黄	No.4 京都信楽系 内外面透明釉	
130	陶器	坏	6.2	3.7	3.0	I	60	良好	灰白	No.60 瀬戸美濃系 内外面灰釉	30-3
131	陶器	灯明皿	-	[2.1]	-	I	5	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面下位拭き取り 少量煤付着 18C後	30-4
132	陶器	香炉	(9.8)	5.4	5.4	I	60	良好	灰白	No.22・23 瀬戸美濃系 外面灰釉 鉄絵	30-5
133	陶器	二お鉢	-	[6.3]	(16.4)	GIL	15	良好	灰白	No.14 瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡	
134	陶器	壺	-	[3.8]	(9.0)	EGIL	10	良好	灰白	No.33 瀬戸美濃系 内外面施釉 内面目跡	30-6
135	陶器	土瓶	-	[6.7]	6.6	K	75	良好	浅黄橙	No.39 外面青磁釉 19C前～中	
136	瓦質土器	焙烙	(35.7)	4.5	(34.0)	CGI	20	良好	灰	No.63・64・71・72・75 砂目底 燻す	
137	瓦質土器	焙烙	(34.8)	[4.3]	(32.2)	CHK	15	普通	褐色	No.77 外面煤付着 底部割離 燻す	30-7
138	瓦質土器	焙烙	38.6	4.3	36.0	CFH	15	良好	灰白	No.55 底部シワ状痕 燻す	
139	瓦質土器	焙烙	-	5.4	-	CFI	5	良好	灰白	No.13 砂目底 燻す	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
140	土師質土器	焙烙	35.6	5.9	-	CEHK	60	良好	にぶい黄橙	底部シワ状痕 内底面刻印「大極上」	
141	磁器	皿	(10.8)	[1.9]	(6.3)	K	15	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施釉 酸化コバルト染付 19C後	
142	瓦	十徳瓦	長[4.1]幅[4.3]厚1.4 高2.8			CEM	15	普通	灰白	上面砂目痕 18C以降 焼す	
143	磁器	碗	(8.2)	5.0	3.6	-	55	良好	白	№2 肥前系 内外面施釉 染付 18C後	
144	陶器	灯明皿	9.7	2.0	4.2	IK	90	良好	褐色	№1 瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位拭き取り 重ね焼き痕 18C後～19C前	
145	磁器	碗	-	[5.0]	(4.5)	-	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 19C前～中	
146	陶器	碗	(9.6)	5.2	(4.0)	I	30	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C前～中	
147	かわらけ	小皿	(9.0)	2.3	(6.0)	CEBK	30	普通	浅黄橙	底部糸切痕(左) 胎土砂質	
148	陶器	楕鉢	-	[3.5]	-	BGI	5	良好	褐色	丹波系 17C後～18C前	
149	木製品	杭	長さ[47.4] 幅4.4 厚さ4.2							建築材転用 側面釘穴2	
150	木製品	杭	長さ[46.5] 幅5.0 厚さ4.4							建築材転用	
151	石製品	板碑	長さ[39.1] 幅22.8 厚さ2.5 重さ[4010.0]							柁線・光明遍照像あり	
152	石製品	板碑	長さ[30.9] 幅[13.2] 厚さ1.8 重さ[937.1]							裏面押附痕	
153	石製品	板碑	長さ[20.7] 幅[18.7] 厚さ3.3 重さ[1339.0]							サカサ種子 蓮産あり	33-1
154	石製品	板碑	長さ[34.7] 幅[17.0] 厚さ2.0 重さ[1721.0]							柁線あり	
155	石製品	板碑	長さ[27.5] 幅[19.2] 厚さ3.1 重さ[2601.0]							サ種子 蓮産・柁線あり	33-2
156	石製品	石臼	長さ[17.7] 幅[28.3] 径[28.6] 高さ7.4 重さ[3935.4]							安山岩 上臼	33-3
157	石製品	石臼	長さ[23.4] 幅[14.7] 高さ12.8 重さ[4294.2]							安山岩 下臼	33-4
158	石製品	砥石	長さ[6.3] 幅[1.8] 厚さ[2.2] 重さ[43.7]							ホルンフェルス 刀物痕 紙面4	33-7
159	鉄製品	刃物	長さ[12.9] 幅0.3 刀幅2.2 重さ[53.0]								34-3
160	鉄製品	不明	長さ[12.3] 幅[1.0] 厚さ[0.3] 重さ[12.1]								34-3
161	銅製品	銭貨	径24.1 厚さ1.2 重さ2.2								34-3

114は肥前系磁器の碗である。110・111は外面に染付を施す。18世紀中葉から後葉の所産である。112・113は内外面に染付を施す。112は18世紀後葉の所産である。113は18世紀後葉の所産である。114は18世紀末の所産である。115・116は瀬戸美濃系磁器の碗である。内外面に染付を施す。19世紀初頭の所産である。117は肥前系磁器の碗である。内外面に染付を施す。18世紀末から19世紀初頭の所産である。118・120は瀬戸美濃系磁器の碗である。内外面に染付を施す。19世紀初頭の所産である。119は肥前系磁器の碗である。内外面に染付を施す。19世紀前葉の所産である。122は瀬戸美濃系磁器の碗である。内外面に染付を施す。19世紀中葉の所産である。123は瀬戸美濃系磁器の碗である。外面に染付を施す19世紀前葉から中葉の所産である。

124は肥前系磁器の猪口である。外面に染付を施す。18世紀前葉から中葉の所産である。

125は肥前系磁器の皿である。内外面に染付を施す。18世紀代の所産である。126は肥前系磁器の鉢である。外面に青磁釉を施釉し、内面に染付を施す。18世紀後葉から19世紀前葉の所産である。

127は肥前系磁器の徳利である。外面に施釉する。17世紀後葉の所産である。

128は瀬戸美濃系陶器の碗である。外面に鉄釉を施釉し、白盛絵付を施す。19世紀前葉の所産である。129は京都信楽系陶器の碗である。内外面に透明釉を施釉する。130は瀬戸美濃系陶器の坏である。内外面に灰釉を施釉する。

131は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。内外面に柿釉を施釉する。少量の煤の付着が認められる。18世紀後葉の所産である。132は瀬戸美濃系陶器

の香炉である。外面に灰釉を施軸し、鉄絵を施す。133は瀬戸美濃系陶器のこね鉢である。内外面に灰釉を施軸する。内面には目跡が遺存する。134は瀬戸美濃系陶器の甕である。内外面に柿釉を施軸する。内面には目跡が遺存する。135は陶器の土瓶である。外面に青磁釉を施軸する。19世紀前葉から中葉の所産である。

136～140は焙烙である。137は外面に煤が付着する。140は内面底面に「大極上」の刻印を施す。出土遺物の様相から、本溝跡は19世紀代に埋没したものと考えられる。

第77号溝跡 (第159・160・162・182図)

M-19・20グリッドに位置する。直線に走るごく短い溝であり、規模は、全長2.27m、幅0.22～0.25m、深さ0.12～0.21mである。走行方位はN-89°-Eを示す。断面形態は、U字形を呈する。

出土遺物は、第182図に示した。143は肥前系磁器の碗である。内外面に染付を施す。18世紀後葉の所産である。144は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。内外面に柿釉を施軸する。18世紀後葉から19世紀前葉の所産である。

第81号溝跡 (第159・182図)

L・M-2 1グリッドに位置する。直線に走る溝であり、両端部は調査区外へと延びる。規模は、遺存直で、検出全長15.82m、幅0.42～0.79m、深さ0.18～0.31mである。走行方位はN-3°-Wを示す。断面形態は、逆台形を呈する。第70・94号溝跡、第207・208号土壌と重複し、これを壊している。

出土遺物は、第182図に示した。145は瀬戸美濃系磁器の碗である。外面に染付を施す。19世紀前葉から中葉の所産である。

第82号溝跡 (第167・182図)

L-21グリッドに位置する。直線に走る溝であり、北側端部は調査区外へと延びる。規模は、遺存直で、検出全長8.80m、深さ0.81～1.18m、

深さ0.39～0.52mである。走行方位はN-88°-Eを示す。断面形態は、逆台形を呈する。第124号井戸跡と重複するが、新旧関係は不明である。

出土遺物は、第182図に示した。146は瀬戸美濃系陶器の碗である。内外面に灰釉を施軸する。18世紀前葉から中葉の所産である。

第89号溝跡 (第168・182図)

N-23・24グリッドに位置する。直線に走る溝であり、西側端部は重複遺構によって壊されている。規模は、遺存直で、検出全長12.08m、幅0.18～0.28m、深さ0.07～0.11mである。走行方位はN-85°-Eを示す。断面形態は、碗形を呈する。第88号溝跡と重複し、これに壊されている。第86号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

(4) 土壌

土壌は、全部で175基検出された。平面形態は、長方形や楕円形を呈するものが多い。D～F-5、E～G-6グリッド周辺に、南北方向に長い方形の土壌が重複せずに集中する傾向が認められた。遺構の性格が判断できるものは、確認されなかった。個別の土壌については第15表に示し、特徴的なものについて、以下に取り上げることとする。

第14号土壌 (第186・199図)

E-5グリッドに位置する。平面形態は南北に長い長方形で、規模は、長軸3.69m、短軸0.59m、深さ0.16mである。主軸方位はN-10°-Eを示す。断面形態は、箱形である。第13号土壌と重複し、これを壊している。第6号井戸跡と重複し、これに壊されている。

出土遺物は、第199図に示した。1は土製のさいころである。一辺は1.3cmである。刺突によって各面の数字を表現している。

第20号土壌 (第187・199図)

E-5グリッドに位置する。平面形態は南北に長い長方形で、規模は、長軸2.08m、短軸0.60m、深さ0.25mである。主軸方位はN-0°を示す。断面形態は、箱形を呈する。第22号土壌と重複し、

これを壊している。

出土遺物は、第199図に示した。2・3はかわらけである。2は、内面が黒化しており、灯明皿として使用されたものと考えられる。4は瓦質土器の播鉢である。小破片であるが、内面に播目が遺存する。

第21号土壙 (第187・199図)

E-5グリッドに位置する。平面形態は南北に長い長方形で、規模は、長軸2.10m、短軸0.62m、深さ0.25mである。主軸方位はN-2°-Wを示す。断面形態は、箱形を呈する。第22号土壙と重複し、これを壊している。

出土遺物は、第199図に示した。5はかわらけである。

第23号土壙 (第187・199図)

E-6グリッドに位置する。平面形態は隅丸長方形で、規模は、長軸2.00m、短軸0.77m、深さ0.22mである。主軸方位は、N-0°を示す。断面形態は、箱形を呈する。

出土遺物は、第199図に示した。6は平瓦の破片である。

第30号土壙 (第187・199図)

E・F-5グリッドに位置する。平面形態は長方形で、規模は、長軸1.98m、短軸0.92m、深さ0.38mである。主軸方位はN-0°を示す。断面形態は、箱形を呈する。

出土遺物は、第199図に示した。7はかわらけである。底部は回転糸切である。8は瓦質土器の播鉢である。内面にわずかに播目が遺存する。

第32号土壙 (第188・201図)

E-6グリッドに位置する。平面形態は長方形で、規模は、長軸1.84m、短軸0.72m、深さ0.42mである。主軸方位はN-7°-Eを示す。断面形態は、箱形を呈する。

底面の中央寄りに、ピット様の掘り込みを1箇所有する。

出土遺物は、第201図に示した。42は北宋銭の

元祐通寶である。初鋳年は、1086年である。

第36号土壙 (第188図)

F-5グリッドに位置する。平面形態は長方形で、規模は、長軸1.75m、短軸1.07m、深さ0.25mである。主軸方位はN-85°-Wを示す。断面形態は、箱形を呈する。第19号井戸跡と重複するが、新旧関係は不明である。

底面の西側と東側にそれぞれ1箇所ずつ、ピット様の掘り込みを有する。遺物は出土しなかった。

第38号土壙 (第188・199図)

F-5グリッドに位置する。平面形態は長方形で、規模は、長軸2.40m、短軸0.72m、深さ0.14mである。主軸方位はN-13°-Eを示す。断面形態は、箱形を呈する。

出土遺物は、第199図に示した。9は瓦質土器の播鉢である。使用により内面が著しく摩耗しており、わずかに播目が遺存する。遺構の北東側の肩部より出土している。

第49号土壙 (第189図)

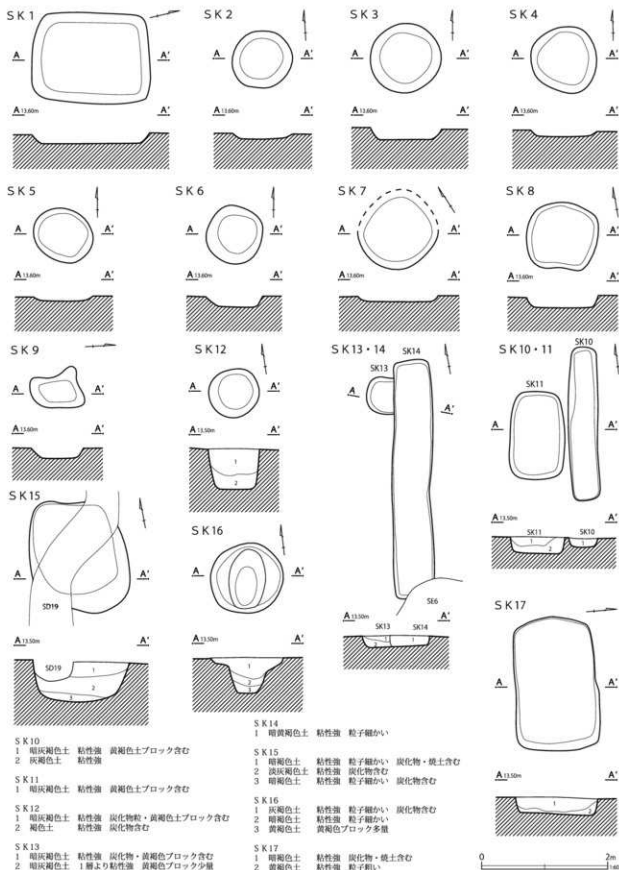
F-6グリッドに位置する。平面形態は長方形を呈する。規模は、長軸1.90m、短軸0.86m、深さ0.22mである。主軸方位はN-8°-Eを示す。断面形態は、箱形を呈する。第23号井戸跡と重複し、これを壊している。第2号墓跡と重複し、これに壊されている。

底面の北側と南側にそれぞれ1箇所ずつピット様の掘り込みを有する。遺物は出土しなかった。

第51号土壙 (第189・199図)

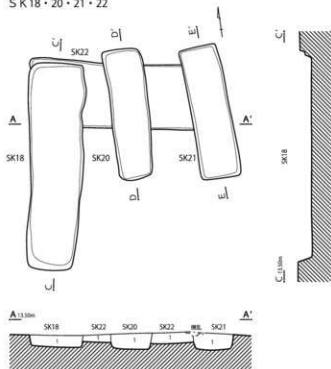
E・F-6グリッドに位置する。平面形態は長方形で、規模は、長軸4.55m、短軸0.83m、深さ0.25mである。主軸方位はN-0°を示す。断面形態は、逆台形を呈する。

出土遺物は、第199図に示した。10は常滑の甕である。肩部から胴部、底部にかけての破片である。内面には、指頭王痕が遺存する。外面は、下位をヘラナデ、上位をヨコナデによって整形する。11は内耳鍋である。外面の一部には煤が付着して

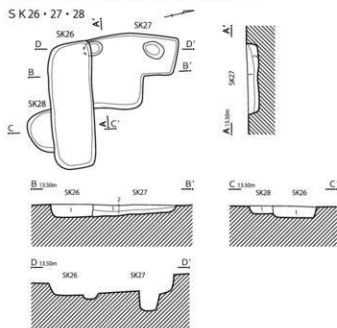


第186図 土壌 (1)

S K 18・20・21・22



S K 26・27・28



S K 18・20・21

1 暗褐色土 粘性強 炭化物粒・黄褐色ブロック含む

S K 22

1 暗灰褐色土 粘性強 炭化物粒・黄褐色粘土ブロック含む

S K 23・24・25

1 褐色土 粘性強 炭化物・焼土粒多量

S K 26

1 褐色土 粘性強 炭化物・焼土粒多量

S K 27

1 暗褐色土 粘性強 黄褐色粒多量

2 暗褐色土 2層より明るい 黄褐色ブロック含む

S K 28

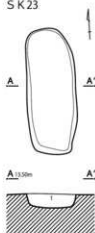
1 淡褐色土 粒子粗い 黄褐色ブロック多量

S K 30

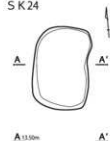
1 暗褐色土 粘性強 炭化物混入 黄褐色土含む

2 黒褐色土 粘性強 1層より粒子細かい

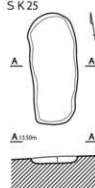
S K 23



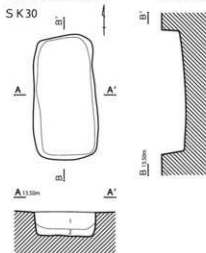
S K 24



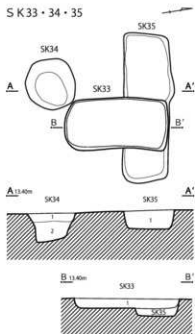
S K 25



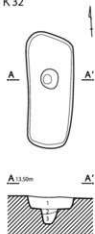
S K 30



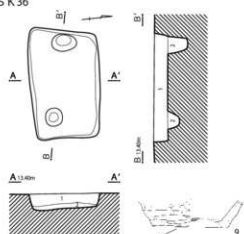
SK 33・34・35



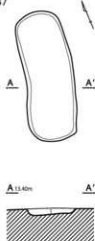
SK 32



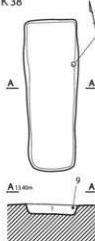
SK 36



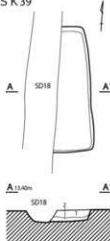
SK 37



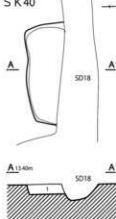
SK 38



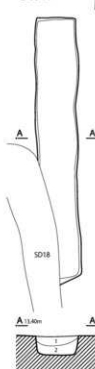
SK 39



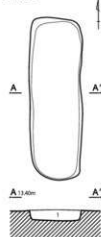
SK 40



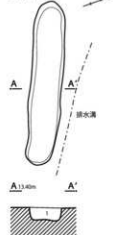
SK 44



SK 42



SK 43



SK 34
1 暗褐色土 粘性強 粒子細かい 炭化物含む
2 暗黄褐色土 粘性弱 粒子細かい 炭化物含む

SK 35
1 暗褐色土 粘性強 黄褐色粒含む

SK 36
1 暗灰褐色土 粘性強 粒子細かい
2 灰褐色土 粘性強 炭化物・焼土含む

SK 37
1 暗灰褐色土 砂質 粘土含む

SK 38
1 暗褐色土 粘性・しまり強 黄褐色ブロック少量

SK 39
1 暗灰褐色土 粘性強 粒子細かい
2 灰褐色土 粘性強 炭化物・焼土含む

SK 40
1 暗褐色土 粘性強 炭化物含む

SK 42
1 暗褐色土 粘性・しまり強 黄褐色ブロック少量

SK 43
1 暗褐色土 粘性強 粒子細かい 炭化物・焼土含む

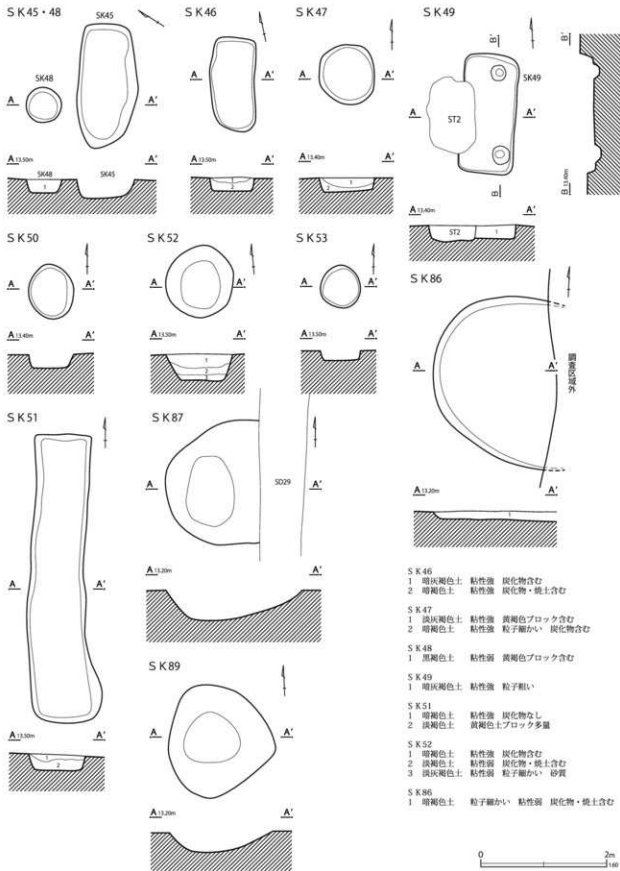
SK 44
1 灰黄色土 粘性強 硬くしまる 粒子細かい
2 褐色土 粘性強 炭化物含む 粒子細かい

SK 32
1 暗褐色土 黄褐色土・粘土ブロック含む
2 暗褐色土 粘性強 粒子細かい
3 暗褐色土 粘性強 粒子粗い 黄褐色ブロック含まない

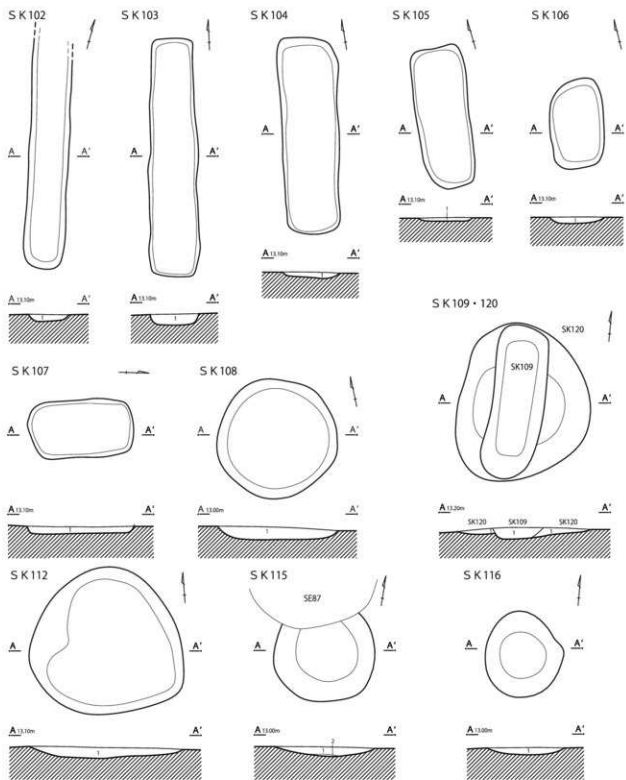
SK 33
1 暗褐色土 黄褐色土粒多量

0 2m 1:100

第188図 土壙 (3)



第189図 土坑（4）



SK 102 ~ SK 112

1 黒褐色土 粘性強 粒子細かい 炭化物を含む

SK 115

1 灰褐色土 粘性強 炭化物を含む
2 暗褐色土 粘性強 炭化物を含む 粒子細かい

SK 116

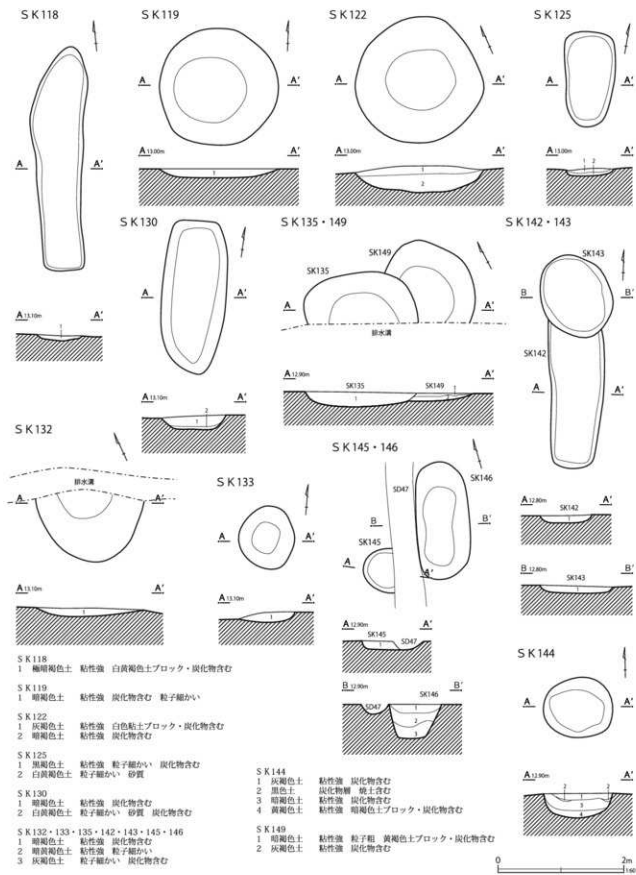
1 黒褐色土 粘性強 炭化物を含む 粒子細かい

SK 120

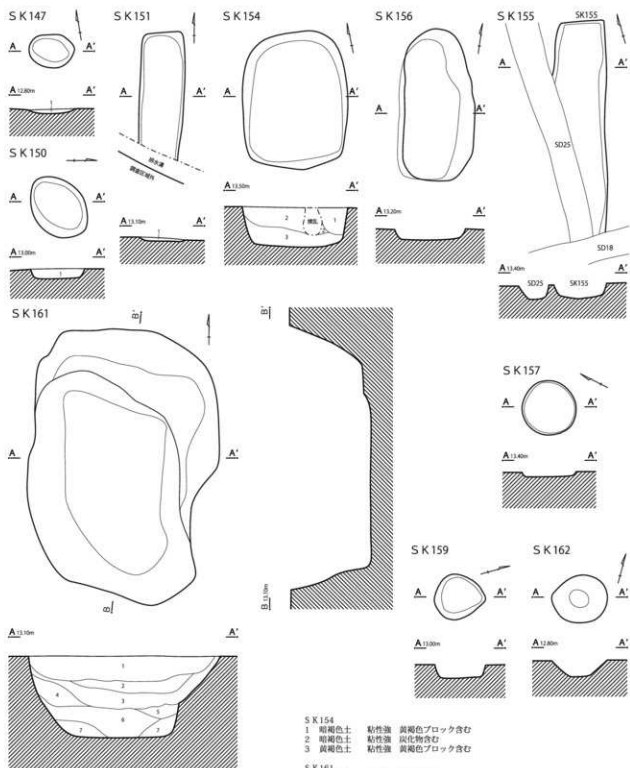
1 暗褐色土 粘性強 粒子細かい 炭化物を含む

0 2m
100

第190図 土坑 (5)



第191図 土坑 (6)



SK 154

- 1 灰褐色土 粘性強 黄褐色ブロック含む
2 暗褐色土 粘性強 炭化物含む
3 黄褐色土 粘性強 黄褐色ブロック含む

SK 161

- 1 灰褐色土 粘性強 炭化物多量
2 暗褐色土 粘性強 炭化物多量
3 極暗褐色土 粘性強 黄褐色土ブロック・炭化物含む
4 暗褐色土 粘性強
5 黄褐色土 粘性強 砂質 粒子細か
6 灰色土 粘性強 礫元
7 灰色土 粘性強 黄褐色土ブロック含む

SK 147

- 1 暗褐色土 粘性強 白黄褐色土ブロック・炭化物多量

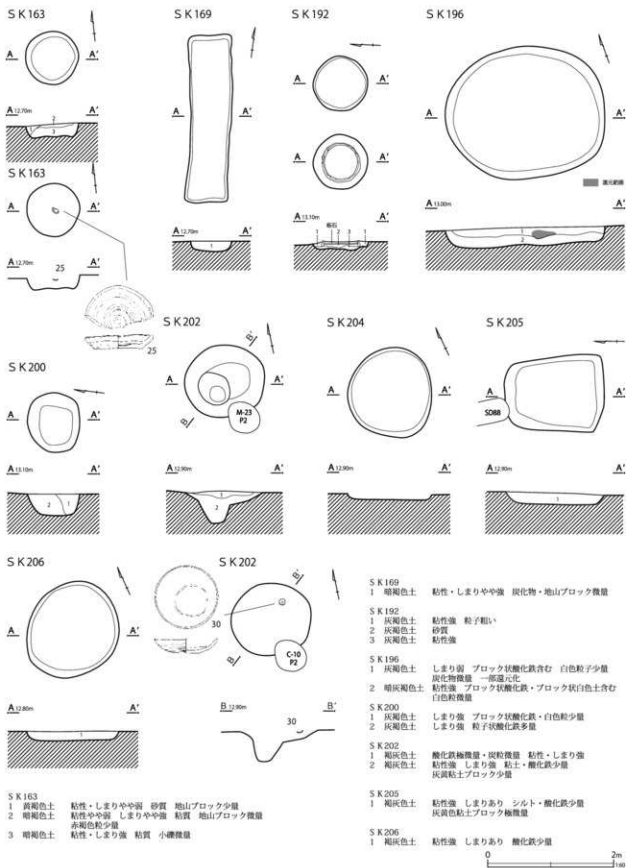
SK 150

- 1 黒褐色土 粘性強 黄褐色土ブロック・焼土・炭化物を含む

SK 151

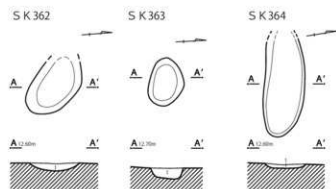
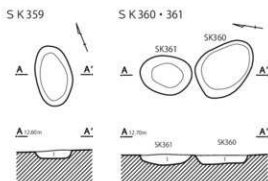
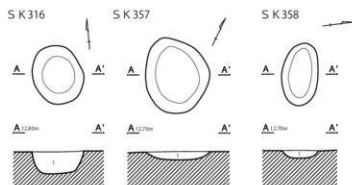
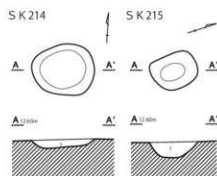
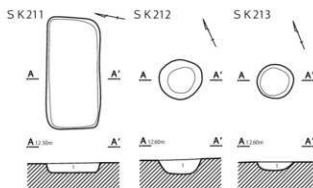
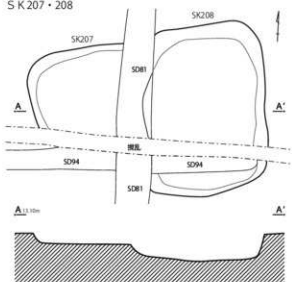
- 1 黒褐色土 粘性強 炭化物を含む 骨片出土

第192図 土壌 (7)

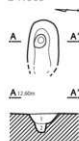


第193図 土壌 (8)

S K 207・208



S K 365



S K 211
1 暗褐色土 しまり弱 白色粘多量 酸化鉄粒子少量

S K 212
1 暗褐色土 粘性弱 酸化鉄少量

S K 213
1 暗灰色土 粘性弱 酸化鉄多量 灰色粘土ブロック残量

S K 214
1 暗褐色土 粘性弱 酸化鉄多量 白色粘土ブロック残量

S K 215
1 暗褐色色土 粘性弱 酸化鉄ブロック少量
灰色粘・灰色粘土ブロック残量 壁の一部が還元化

S K 316
1 暗褐色色土 粘性・しまりあり 酸化鉄塊を含む 炭化物粘残量

S K 357・359・362・364
1 暗褐色土 しまり強 粘質 炭化物少量 黄白色粘土含む

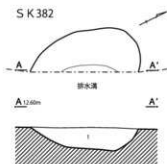
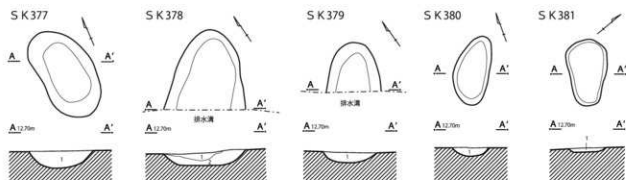
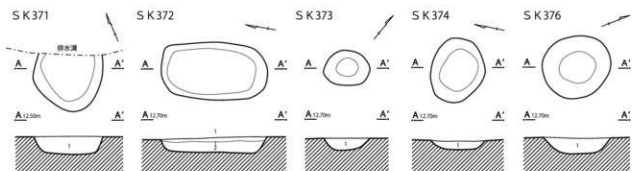
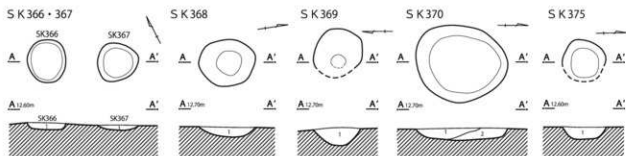
S K 358
1 暗褐色土 しまり強 粘質 灰色粘土ブロック・酸化鉄少量

S K 360・361
1 暗褐色土 しまり強 粘質 白色粘土ブロック・酸化鉄少量

S K 363
1 暗褐色土 しまり強 粘質 酸化鉄少量

S K 365
1 暗褐色土 しまり強 粘質 酸化鉄・炭化物少量
2 灰褐色土 しまりあり 粘質 炭化物少量

第194図 土坑 (9)



S K 366・367

1 暗褐色土 しまり強 粘質 炭化物少量 黄白色粘土含む

S K 368

1 暗褐色土 しまり強 粘質 灰色土混入 酸化鉄・炭化物少量

S K 369

1 暗褐色土 しまり強 粘質 酸化鉄・炭化物少量

S K 370

1 暗褐色土 しまり強 粘質 炭化物少量

2 暗褐色土 しまり強 粘質 炭化物少量 黄白色粘土含む

S K 371

1 暗褐色土 しまり強 酸化鉄・炭化物少量 灰色土含む

S K 372

1 暗褐色土 しまり弱 砂質 粘土少量

2 暗褐色土 しまりあり 粘質 酸化鉄・炭化物少量

S K 373

1 暗褐色土 しまりあり 粘質 炭化物少量 灰色土含む

S K 374

1 暗褐色土 しまり強 粘質 炭化物・黄白色粘土少量

S K 375

1 暗褐色土 しまり強 粘質 黄白色土含む

S K 376

1 暗褐色土 しまり・粘性弱 砂質

S K 377

1 暗褐色土 しまり弱 砂質 灰色土含む

S K 378

1 灰褐色土 しまり弱 粘質 酸化鉄多量

2 暗褐色土 しまりあり 粘質 酸化鉄少量

S K 379

1 暗褐色土 しまり強 粘質 酸化鉄少量

S K 380

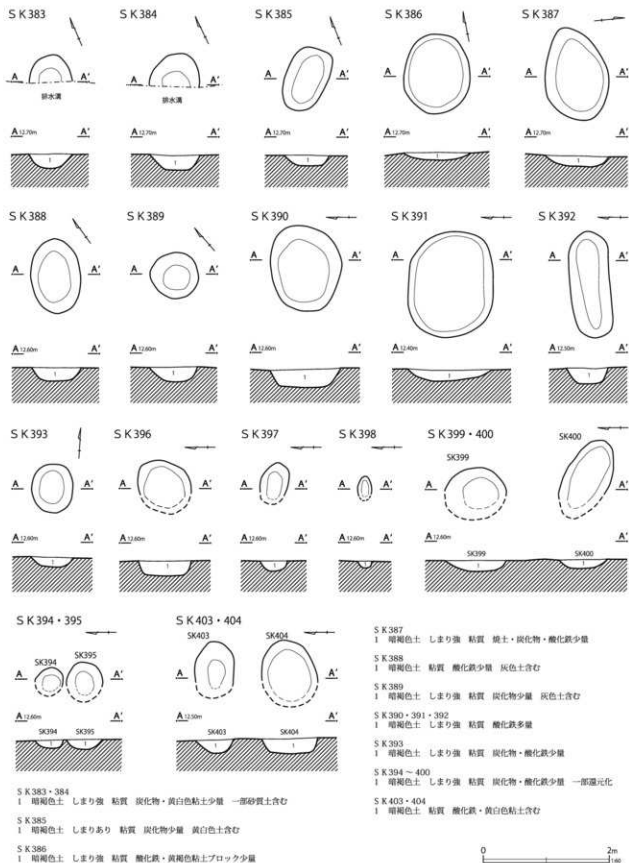
1 暗褐色土 しまり強 粘質 酸化鉄少量 灰色土含む

S K 381

1 暗褐色土 しまりあり 粘質 酸化鉄・炭化物少量

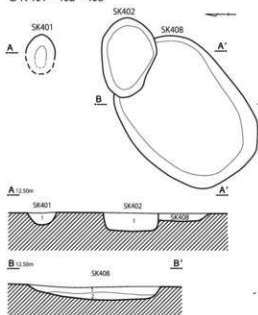
S K 382

1 暗褐色土 しまり強い 粘質 灰色土含む 焼土・炭化物少量

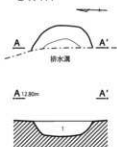


第196図 土壇 (11)

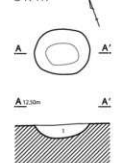
S K 401・402・408



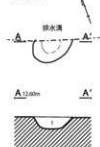
S K 411



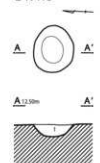
S K 417



S K 414



S K 418



S K 401・402・405

1 暗褐色土 粘質 礫化鉄・黄白色粘土含む

S K 408

1 暗褐色土 しまり強 粘質 炭化物・灰色粘土ブロック少量
2 灰褐色土 しまり強 粘質 礫化鉄多量 灰色粘土ブロック・炭化物少量

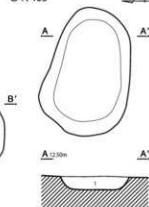
S K 406・407・413・414

1 暗褐色土 しまり強 粘質 礫化鉄・焼土少量 灰色土含む

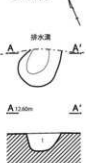
S K 409

1 暗褐色土 しまり強 粘質 灰色粘土ブロック・炭化物少量 黄白色土含む
2 灰褐色土 しまりあり 粘質 礫化鉄多量

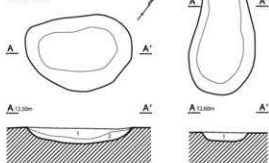
S K 405



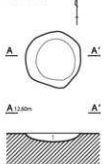
S K 406



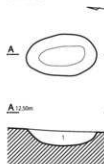
S K 409



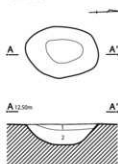
S K 410



S K 415



S K 416



S K 410

1 暗褐色土 しまり強 粘質 灰色粘土ブロック・礫化鉄少量

S K 411

1 暗褐色土 しまり強 粘質 黄白色土混入

S K 412

1 暗褐色土 しまり強 粘質 黄白色土含む 一部還元化

S K 415

1 暗褐色土 しまり強 粘質 黒褐色粘土ブロック・焼土・礫化鉄少量

S K 416

1 褐色土 しまり強 粘質 灰色土ブロック・焼土少量
2 暗褐色土 しまり強 粘質 灰色土ブロック・礫化鉄少量

S K 417

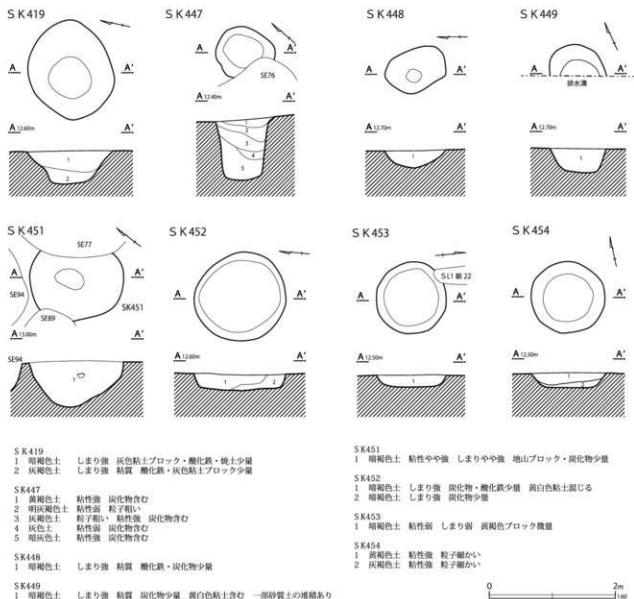
1 暗褐色土 しまり強 粘質 炭化物・礫化鉄少量

S K 418

1 暗褐色土 しまり強 粘質 礫化鉄多量 灰色土ブロック少量



第197図 土坑 (12)



第198図 土壌 (13)

いる。

第86号土壌 (第189・199・201図)

G-7グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は、遺存値で、長軸2.83m、短軸1.97m、深さ0.14mである。主軸方位はN-17°-Wを示す。断面形態は、皿形を呈する。第52号溝跡と重複し、これを壊している。

出土遺物は、第199・201図に示した。12はかわらけである。底部は回転糸切である。13は瓦質土器の挿鉢である。被熱により変色しており、剥離が著しい。

第87号土壌 (第189・199図)

F・G-6グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は、遺存値で、長軸2.15m、短軸1.93m、深さ0.50mである。主軸方位はN-90°を示す。断面形態は、不整形を呈する。第29号溝跡と重複し、これに壊されている。

出土遺物は、第199図に示した。14は古瀬戸の縁軸小皿である。口縁部内外面には、灰軸を施軸する。

第102号土壌 (第190・199図)

G-7グリッドに位置する。平面形態は隅丸長方形である。遺構の北側は浅く、掘り込みを確認

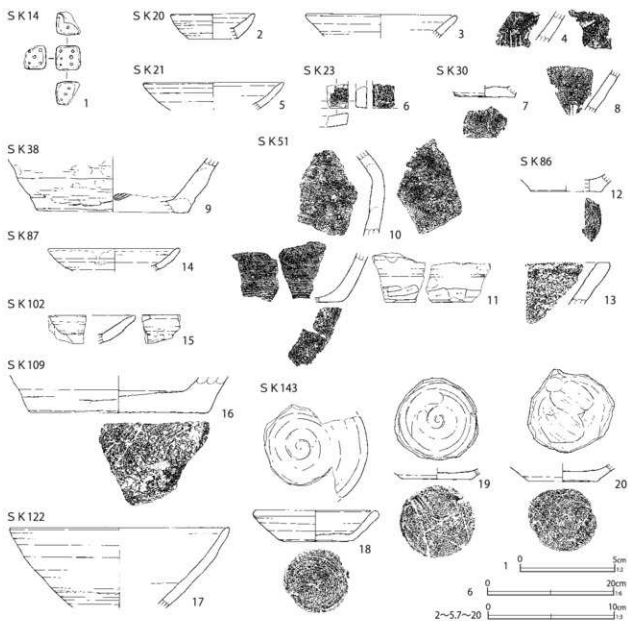
第15表 土壌一覧表 (第186～198図)

遺構名	グリッド	平面形	長軸方位	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複遺構
SK1	H-14	方形	N-15° -E	1.84	1.44	0.17	
SK2	H-14	円形	N-59° -E	0.93	0.90	0.08	
SK3	I-13	円形	N-56° -E	1.12	1.11	0.18	
SK4	I-13	円形	N-38° -W	1.07	1.04	0.09	
SK5	I-14	槽円形	N-15° -W	0.95	0.82	0.07	
SK6	I-14	円形	N-14° -W	0.94	0.94	0.17	
SK7	I-14	円形	N-74° -E	[1.14]	[1.04]	0.09	
SK8	I-14	隅丸方形	N-67° -W	1.31	1.04	0.17	
SK9	J-14	不整形	N-0°	0.83	0.48	0.14	
SK10	E-5	長方形	N-3° -E	2.40	0.40	0.15	
SK11	E-5	長方形	N-6° -E	1.40	0.85	0.25	
SK12	E-5	円形	N-47° -E	0.81	0.77	0.65	
SK13	E-5	不整形	N-15° -E	0.58	[0.40]	0.16	SK14(新)
SK14	E-5	長方形	N-10° -E	3.69	0.59	0.16	SK13(古) SE6(新)
SK15	D・E-5	不整形	N-28° -W	0.20	1.56	0.54	SD19(古)
SK16	E-5	円形	N-90°	1.15	1.10	0.57	
SK17	D-5	長方形	N-90°	2.11	1.26	0.24	
SK18	E-5	長方形	N-10° -E	3.25	0.78	0.24	SK22(古)
SK19	欠番						
SK20	E-5	長方形	N-0°	2.08	0.60	0.25	SK22(古)
SK21	E-5	長方形	N-2° -W	2.10	0.62	0.25	SK22(古)
SK22	E-5	長方形	N-80° -W	[2.42]	0.97	0.13	SK18・20・21(新)
SK23	E-6	隅丸長方形	N-0°	2.00	0.77	0.22	
SK24	E-6	不整形	N-15° -E	1.30	0.85	0.15	
SK25	E-6	不整形	N-7° -E	1.77	0.73	0.10	
SK26	E-6	隅丸長方形	N-84° -W	1.98	0.61	0.18	SK27・28(古)
SK27	E-6	不整形	N-3° -E	[1.35]	1.20	0.18	SK26(新)
SK28	E-6	不整形	N-90°	0.65	[0.38]	0.13	SK26(新)
SK30	E・F-5	長方形	N-0°	1.98	0.92	0.38	
SK32	E-6	長方形	N-7° -E	1.84	0.72	0.42	
SK33	F-5	長方形	N-9° -E	1.65	0.82	0.15	SK35(古)
SK34	F-5	円形	N-53° -E	0.87	0.79	0.45	
SK35	F-4・5	長方形	N-80° -W	2.35	0.69	0.30	SK33(新)
SK36	F-5	長方形	N-85° -W	1.75	1.07	0.25	SE19
SK37	F-5	長方形	N-10° -E	2.07	0.76	0.10	
SK38	F-5	長方形	N-13° -E	2.40	0.72	0.14	
SK39	F-5	長方形	N-9° -W	1.98	[0.53]	0.16	SD18(新)
SK40	E-5	長方形	N-84° -W	1.61	[0.55]	0.15	SD18(新)
SK42	F-5	槽円形	N-0°	2.50	0.81	0.15	
SK43	D-5	隅丸長方形	N-67° -W	2.60	0.49	0.19	
SK44	E・F-5	長方形	N-4° -E	4.16	[0.64]	0.29	SD18(新)
SK45	F-6	槽円形	N-57° -E	1.97	0.92	0.35	SE20(古)
SK46	E・F-6	長方形	N-14° -E	1.45	0.69	0.20	
SK47	F-5	円形	N-0°	0.94	0.87	0.21	
SK48	F-6	円形	N-33° -W	0.57	0.55	0.21	SE20(古)
SK49	F-6	長方形	N-8° -E	1.90	0.86	0.22	SE23(古) ST2(新)
SK50	F-5・6	槽円形	N-8° -W	0.86	0.72	0.21	
SK51	E・F-6	長方形	N-0°	4.55	0.83	0.25	
SK52	F-7	円形	N-18° -E	1.15	1.03	0.42	
SK53	G-6	円形	N-0°	0.67	0.62	0.15	
SK86	G-7	槽円形	N-17° -W	2.83	[1.97]	0.14	SD52(古)
SK87	F・G-6	槽円形	N-90°	2.15	[1.93]	0.50	SD29(新)
SK89	F・G-7	不整形	N-5° -W	1.79	1.40	0.33	
SK102	G-7	隅丸長方形	N-12° -W	[3.47]	0.60	0.10	SE88
SK103	G-8	長方形	N-0°	3.75	0.73	0.15	

遺構名	グリッド	平面形	長軸方位	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複遺構
SK104	G-8	長方形	N-8° -W	3.10	0.85	0.10	
SK105	G-8・9	長方形	N-10° -E	2.22	0.82	0.05	
SK106	F・G-8・9	楕円形	N-11° -E	1.35	0.79	0.10	
SK107	G-8	楕円形	N-0°	1.67	0.89	0.11	
SK108	F-7	円形	N-75° -E	1.89	1.80	0.19	
SK109	F-8	隅丸長方形	N-0°	2.46	0.80	0.18	SK120(古)
SK112	F-7	不整形	N-55° -W	2.50	2.25	0.17	
SK115	F-8	円形	N-34° -E	1.65	1.54	0.14	SE87(新)
SK116	F-8	不整形	N-8° -W	1.36	1.00	0.11	
SK118	G-9	不整形	N-7° -E	3.55	0.71	0.07	
SK119	G・H-8・9	円形	N-90°	1.88	1.75	0.14	
SK120	F-8	不整形	N-0°	2.51	1.90	0.11	SK109(新)
SK122	F-9・10	円形	N-40° -E	2.02	1.89	0.40	
SK125	F-9	不整形	N-18° -W	1.50	0.72	0.12	
SK126	欠番						
SK130	F-8	楕円形	N-7° -W	2.40	0.91	0.20	
SK131	欠番						
SK132	F-10	楕円形	N-67° -W	[1.65]	[0.97]	0.14	
SK133	F-7・8	楕円形	N-0°	0.98	0.78	0.16	
SK135	H-8・9	不整形	N-55° -W	1.82	[0.87]	0.24	SK149(古)
SK139	欠番						
SK142	G-11	隅丸長方形	N-0°	[2.12]	[0.83]	0.15	SK143(新)
SK143	G-11	楕円形	N-25° -W	1.35	1.06	0.10	SK142(古)
SK144	G-11	楕円形	N-90°	1.09	0.91	0.38	
SK145	H-11	円形	N-30° -E	[0.70]	[0.66]	0.10	SD47(古)
SK146	H-11	楕円形	N-12° -E	1.84	0.83	0.14	
SK147	G-11	楕円形	N-80° -W	0.73	0.49	0.08	
SK149	H-9	楕円形	N-0°	[1.45]	[0.94]	0.12	SE94(古) SK135(新)
SK150	H-11	楕円形	N-43° -E	1.09	0.69	0.16	SD42(古)
SK151	G-7	長方形	N-5° -E	[2.02]	0.70	0.05	
SK154	F-6	隅丸長方形	N-0°	2.16	1.60	0.60	
SK155	E-4	長方形	N-14° -E	[3.4]	0.82	0.24	SD18・25(新)
SK156	H-13	隅丸長方形	N-10° -W	2.41	1.01	0.17	SE54 SD30
SK157	F-5・6	円形	N-0°	0.85	0.85	0.10	SE20
SK159	F-7	不整形	N-20° -E	0.82	0.72	0.20	
SK161	G-11・12	不整形	N-0°	4.30	2.90	1.28	
SK162	J-15	楕円形	N-75° -E	0.88	0.75	0.25	
SK163	F-7	円形	N-7° -E	0.84	0.84	0.21	
SK169	H・G-12	長方形	N-16° -E	2.65	0.64	0.65	
SK182	欠番						
SK192	L-18	円形	N-90°	0.86	0.86	0.13	
SK194	欠番						
SK196	M-21	楕円形	N-20° -E	2.52	2.10	0.30	
SK200	L-21	楕円形	N-90°	0.94	0.82	0.36	
SK202	M-23	楕円形	N-22° -W	1.48	1.25	0.51	SD85(古) M-23P2(新)
SK204	N-25	円形	N-0°	1.45	1.33	0.09	
SK205	N-23	方形	N-0°	1.55	1.22	0.19	SD88(新)
SK206	O-25	楕円形	N-50° -E	1.56	1.42	0.16	
SK207	L-21	方形	N-11° -W	[1.45]	[1.35]	0.16	SK208 SD81・94
SK208	B-8	方形	N-4° -W	2.70	[2.12]	0.43	SK207 SD81・94
SK211	Q-29	長方形	N-80° -E	1.78	0.85	0.15	
SK212	O-26・27	円形	N-90°	0.67	0.64	0.22	
SK213	P-27	円形	N-90°	0.58	0.55	0.13	
SK214	O-27	楕円形	N-90°	1.00	0.80	0.14	
SK215	P-28	隅丸方形	N-0°	0.74	0.53	0.27	
SK316	L-16	楕円形	N-18° -W	0.93	0.77	0.37	

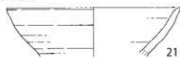
遺構名	グリッド	平面形	長軸方位	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複遺構
SK357	R-34	不整形	N-44° -W	1.23	1.02	0.14	
SK358	R-34	槽円形	N-78° -W	1.00	0.57	0.13	
SK359	R-35	槽円形	N-10° -E	0.95	0.57	0.13	
SK360	S-34	槽円形	N-56° -W	1.03	0.75	0.15	
SK361	S-34	槽円形	N-0°	0.82	0.61	0.17	
SK362	R-34	槽円形	N-48° -W	[1.03]	0.66	0.14	SD402(古)
SK363	S-34	不整形	N-85° -W	0.76	0.55	0.21	
SK364	R-34・35	隅丸長方形	N-75° -W	[1.56]	0.64	0.09	
SK365	S-34	槽円形	N-90°	[0.78]	0.49	0.29	
SK366	R-35	円形	N-26° -E	0.67	0.60	0.12	
SK367	R-35	円形	N-82° -W	0.65	0.60	0.08	
SK368	T-35	槽円形	N-0°	0.90	0.73	0.15	
SK369	S-34	円形	N-35° -W	0.84	0.69	0.27	
SK370	S-34	槽円形	N-20° -E	1.45	1.22	0.19	
SK371	T-38	不整形	N-0°	1.15	[1.06]	0.28	
SK372	R-35	槽円形	N-7° -W	1.67	0.90	0.26	
SK373	S-35	槽円形	N-43° -E	0.73	0.55	0.18	SD406
SK374	T-35	槽円形	N-71° -W	1.02	0.81	0.16	
SK375	U-38	円形	N-7° -W	0.70	(0.65)	0.20	
SK376	T-35	円形	N-18° -W	1.09	0.99	0.27	
SK377	T-35	槽円形	N-7° -W	1.51	0.83	0.26	SD413(古)
SK378	U-37	槽円形	N-37° -E	[1.52]	[1.28]	0.25	
SK379	V-38	槽円形	N-34° -E	[0.90]	[0.87]	0.19	
SK380	S-35	槽円形	N-30° -E	1.10	0.55	0.14	
SK381	S-35	不整形	N-51° -W	1.04	0.65	0.09	
SK382	U-41	槽円形	N-14° -E	[1.75]	[0.88]	0.36	
SK383	T-35	槽円形	N-65° -W	[0.68]	[0.63]	0.22	
SK384	T-36	槽円形	N-90°	[0.8]	[0.69]	0.25	SD418(古)
SK385	T-36	槽円形	N-48° -E	1.05	0.66	0.18	
SK386	T-37	槽円形	N-18° -E	1.25	1.05	0.13	
SK387	T・U-36	槽円形	N-78° -E	1.51	1.02	0.20	
SK388	U-37	槽円形	N-32° -E	1.18	0.78	0.22	
SK389	U-37・38	円形	N-33° -W	0.76	0.74	0.24	
SK390	T-36	槽円形	N-70° -E	1.39	1.12	0.32	
SK391	T-36	槽円形	N-90°	1.66	1.33	0.20	
SK392	S-36	槽円形	N-83° -E	1.69	0.63	0.25	
SK393	U-38	槽円形	N-0°	0.77	0.65	0.17	
SK394	T-38	円形	N-46° -W	[0.35]	[0.27]	0.14	
SK395	T-38	円形	N-65° -E	[0.58]	[0.35]	0.17	
SK396	T-38	槽円形	N-0°	[0.84]	[0.59]	0.24	
SK397	U-38	槽円形	N-77° -W	[0.52]	[0.44]	0.16	SL1線14
SK398	U-38	槽円形	N-90°	[0.3]	[0.22]	0.10	
SK399	U-38	槽円形	N-0°	[0.97]	[0.46]	0.19	SL1線22
SK400	U-38	槽円形	N-58° -W	[1.05]	[0.72]	0.19	SL1線22(古)
SK401	U-39	槽円形	N-0°	[0.47]	[0.38]	0.20	
SK402	U-39	槽円形	N-0°	1.25	0.87	0.29	SK408(古)
SK403	U-39	槽円形	N-0°	[0.72]	[0.57]	0.24	
SK404	V-39	槽円形	N-0°	[0.88]	[0.59]	0.25	
SK405	V-39	槽円形	N-90°	2.02	1.39	0.23	SL1線44・45(古)
SK406	U-41	槽円形	N-48° -E	[0.63]	[0.6]	0.29	
SK407	U-40	槽円形	N-40° -E	[0.5]	[0.44]	0.11	
SK408	U-39	槽円形	N-50° -E	[2.5]	1.82	0.24	SK402(新)
SK409	U-39	槽円形	N-52° -E	1.67	1.20	0.26	
SK410	U-38	円形	N-16° -W	0.90	0.87	0.12	SL1線22・23
SK411	S-34	槽円形	N-0°	[0.97]	[0.44]	0.25	
SK412	U-39	不整形	N-0°	1.88	1.05	0.14	

遺構名	グリッド	平面形	長軸方位	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複遺構
SK413	U-40	楕円形	N-30° -E	[0.57]	[0.51]	0.19	
SK414	T-39	楕円形	N-64° -E	[0.56]	[0.43]	0.18	
SK415	U・V-40	楕円形	N-10° -W	1.12	0.65	0.29	
SK416	U・V-40	楕円形	N-7° -E	1.17	0.80	0.32	
SK417	U・V-40	楕円形	N-70° -W	0.87	0.71	0.24	
SK418	U-40	楕円形	N-90°	0.73	0.63	0.19	
SK419	V-40	楕円形	N-75° -E	1.68	1.34	0.52	
SK447	G-10	楕円形	N-0°	0.92	0.80	1.00	SE76(新)・108 SD44
SK448	S-34	楕円形	N-16° -W	0.97	0.57	0.28	
SK449	T-35	楕円形	N-66° -W	[0.88]	[0.68]	0.40	SD413(古)
SK451	H-9	楕円形	N-38° -W	1.48	[1.10]	0.68	SE77・89(新)
SK452	T-35	円形	N-46° -W	1.44	1.25	0.29	SD432(古)
SK453	V-38・39	円形	N-70° -W	1.12	1.10	0.20	SL1線22(新)
SK454	V-39	円形	N-90°	1.15	1.12	0.25	SL1線39(古)



第199図 土坑出土遺物 (1)

SK146



SK149



SK150



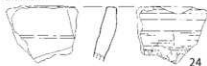
SK192



SK163



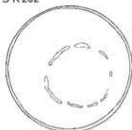
SK151



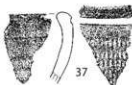
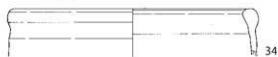
SK196



SK202



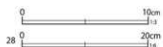
SK207



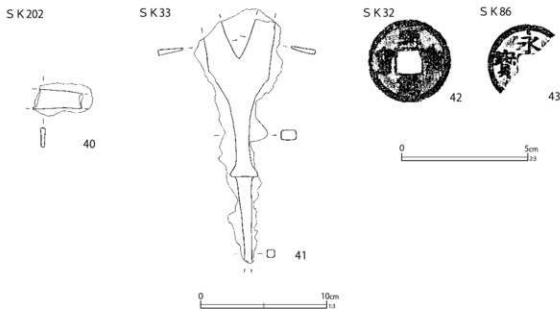
SK316



SK378



第200回 土坑出土遺物(2)



第201図 土壌出土遺物(3)

することはできなかった。規模は、遺存値で、長軸3.47m、短軸0.60m、深さ0.10mである。主軸方位はN-12°-Wを示す。断面形態は、皿形を呈する。第88号井戸跡と重複するが、新旧関係は不明である。

出土遺物は、第199図に示した。15は、古瀬戸の緑釉小皿である。口縁部に灰釉を施軸する。後期様式の製品である。

第109号土壌 (第190・199図)

F-8グリッドに位置する。平面形態は南北に長い隅丸長方形で、規模は、長軸2.46m、短軸0.80m、深さ0.18mである。主軸方位はN-0°を示す。断面形態は、逆台形を呈する。第120号土壌と重複し、これを壊している。

出土遺物は、第199図に示した。16は瓦質土器の鉢である。底部は静止糸切である。

第122号土壌 (第191・199図)

F-9・10グリッドに位置する。平面形態は円形で、規模は、長軸2.02m、短軸1.89m、深さ0.40mである。主軸方位は、N-40°-Eを示す。断面形態は、皿形を呈する。

出土遺物は、第199図に示した。17は古瀬戸の

平碗である。内外面に灰釉を施軸する。後期様式の製品である。

第143号土壌 (第191・199図)

G-11グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は、長軸1.35m、短軸1.06m、深さ0.10mである。主軸方位は、N-25°-Wを示す。断面形態は、皿形を呈する。第142号土壌と重複し、これを壊している。

出土遺物は、第199図に示した。18～20はかわらけである。いずれも左回転の底部糸切である。19・20には板目状圧痕が遺存する。

第146号土壌 (第191・200図)

H-11グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は、長軸1.84m、短軸0.83m、深さ0.14mである。主軸方位はN-12°-Eを示す。断面形態は、逆台形を呈する。

出土遺物は、第200図に示した。21は古瀬戸の平碗である。内外面に灰釉を施軸する。後期様式の製品である。

第149号土壌 (第191・200図)

H-9グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は、遺存値で、長軸1.45m、短軸0.94

第16表 土壌出土遺物観察表 (第199～201図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土製品	さいころ	縦1.3 横1.3 高1.3 重1.40				60	普通	にぶい黄橙	胎土粉質	
2	かわらけ	小皿	(6.7)	2.0	(4.1)	CHI	15	普通	にぶい黄橙	小破片からの図上復元 内面黒化 灯明皿か	
3	かわらけ	小皿	(11.9)	[1.8]	-	CHI	10	普通	にぶい黄橙		
4	瓦質土器	播鉢	-	[2.5]	-	BEI	5	普通	にぶい橙	内面播目	
5	かわらけ	小皿	11.1	-	-	AHI	5	普通	にぶい橙	胎土粉質	
6	瓦	平瓦	長[3.8]	幅[3.5]	厚1.8	CEH	-	普通	灰		
7	かわらけ	小皿	-	[0.9]	(4.7)	CEH	15	普通	にぶい黄橙	底部糸切痕(右)	
8	瓦質土器	播鉢	-	[3.2]	-	C	5	普通	にぶい橙	内面播目 燻す	
9	瓦質土器	播鉢	-	[4.1]	(12.1)	CHI	25	普通	楊灰	酸化炎焼成済み 内面全体摩耗 一部覆目残る	
10	陶器	甕	-	[6.8]	-	DEH	5	普通	楊灰	常滑 内面指頭圧痕 外面下位ヘラナゲ 上位ヨコナゲ	
11	瓦質土器	内耳鍋	-	[3.9]	-	CDE	5	普通	にぶい橙	外面下位ケズリ 煤付着 内面ヨコ工具ナゲ	
12	かわらけ	小皿	-	[1.4]	(5.6)	AH	5	普通	にぶい橙	底部糸切痕 粉質	
13	瓦質土器	播鉢	-	[3.4]	-	CEHI	5	普通	橙	被熱 変色 霜降り状の剥離激しい	
14	陶器	縁軸小皿	(10.3)	[1.8]	-	E	10	普通	灰白	古瀬戸 口縁部内外面灰軸	
15	陶器	縁軸小皿	-	[2.3]	-	IK	5	普通	灰白	古瀬戸 口縁部灰軸 後期様式	
16	瓦質土器	鉢	-	[2.9]	(14.0)	CDEI	5	良好	にぶい黄橙	底部静止糸切痕 やや酸化炎焼成	30-11
17	陶器	平碗	(17.2)	[6.4]	-	HK	15	普通	浅黄	古瀬戸 内外面灰軸 後期様式	
18	かわらけ	小皿	(9.5)	2.5	5.1	CFPGHIK	55	良好	橙	底部糸切痕(左) 胎土砂質	
19	かわらけ	小皿	-	[0.9]	5.6	CFGHK	95	普通	橙	底部糸切痕(左) 板目状圧痕 胎土砂質	
20	かわらけ	小皿	-	[1.4]	5.5	CFHIK	90	普通	にぶい橙	底部糸切痕(左) 板目状圧痕 胎土砂質	
21	陶器	平碗	(13.8)	[3.9]	-	HK	10	良好	灰白	古瀬戸 内外面灰軸 後期様式	
22	磁器	坏	-	[1.5]	-	-	5	良好	白	中国景德鎮系 内外面施釉	
23	陶器	蓋	-	1.0	2.4	DEH	80	普通	灰白	古瀬戸 下面糸切痕(右) 上面灰軸 ヘラ彫施文 合子か 水漬類の蓋 中期様式 13C末～14C	
24	瓦質土器	焙塔	-	[4.3]	-	CEI	5	良好	灰黄	外面煤付着 燻す	
25	かわらけ	小皿	(10.6)	2.3	-	CFH	50	普通	浅黄橙	底部糸切痕 胎土砂質	30-12
26	かわらけ	小皿	長2.3 幅2.2 厚0.6			CH	-	普通	浅黄橙	土製円盤転用	
27	陶器	植木鉢	-	[0.8]	-	K	5	良好	灰白	瀬戸美濃系 底部穿孔	
28	陶器	甕	55.7	[14.4]	-	CHIK	40	普通	明赤褐		
29	陶器	碗	-	[2.0]	-	H	5	良好	浅黄橙	瀬戸美濃系 内外面灰軸 18C前～中	
30	陶器	灯明皿	9.7	2.3	4.2	I	100	良好	にぶい黄橙	瀬戸美濃系 内外面結軸 外面拭き取り 重ね焼き痕 18C後～19C前	30-13
31	陶器	碗	-	[1.6]	4.1	DE	10	普通	灰白	瀬戸美濃系 内面長石軸 円盤状製品転用 側面打ち割り 一部研磨 内外面二次穿孔 17C前	
32	陶器	碗	(8.8)	[3.7]	-	IK	20	良好	灰白	京都信楽系 内外面透明釉(小杉碗) 18C後～19C初	
33	陶器	灯明皿	(9.8)	2.1	5.0	IK	30	良好	被灰	瀬戸美濃系 内外面結軸 外面拭き取り 内面重ね焼き痕 18C後～19C前	
34	陶器	鉢	(18.8)	[3.8]	-	IK	10	良好	浅黄橙	瀬戸美濃系 内外面灰軸 18C後～19C前	
35	陶器	水甕	(21.3)	[4.0]	-	EIK	10	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面縁軸 流掛ヘラ彫り施文 18C後～19C前	
36	陶器	土瓶	-	[2.7]	-	IK	5	良好	灰白	外面青磁釉 19C前	
37	瓦質土器	火鉢	-	[5.4]	-	IK	5	普通	灰褐	口縁部ミガキ 外面トビガンナ状施文 19C前	
38	陶器	碗	(9.6)	[2.9]	-	I	20	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面鉄軸掛け分け 18C後	
39	陶器	甕	-	[5.2]	-	I	5	良好	灰	常滑 内面指頭圧痕顯著	
40	鉄製品	刀子茎か	長さ[2.7] 幅1.0 厚さ0.21 [重さ8.8]								
41	鉄製品	鉄鏝	長さ[13.0] 幅3.2 厚さ0.5 [重さ67.58]								34-3
42	銅製品	銭貨	径25.0 厚さ1.2 重さ3.1							元祐通寶 北宋1086年初鋳	34-3
43	銅製品	銭貨	径24.0 厚さ1.3 重さ1.4							永業通寶 1408年初鋳	34-3

m、深さ0.12mである。主軸方位は $N-0^\circ$ を示す。断面形態は、皿形を呈する。第94号井戸跡と重複し、これを壊している。第135号土壙と重複し、これを壊されている。

出土遺物は、第200図に示した。22は磁器の坏である。中国景德鎮窯系の製品である。

第150号土壙 (第192・200図)

H-11グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は、長軸1.09m、短軸0.69m、深さ0.16mである。主軸方位は $N-43^\circ$ - Eを示す。断面形態は、逆台形を呈する。第42号溝跡と重複し、これを壊している。

出土遺物は、第200図に示した。23は古瀬戸製品で、合子か水滴類の蓋と考えられる。中期様式のもので、13世紀末から14世紀代の所産である。

第192号土壙 (第193・200図)

L-18グリッドに位置する。平面形態は円形で、規模は、直径0.86m、深さ0.13mである。主軸方位は $N-90^\circ$ を示す。断面形態は、皿形を呈する。

遺構の中央部より甕の一部が出土した。出土状況より、遺構の上部は大きく削平されているものと考えられる。甕には板石がはめ込まれた状態であった。出土遺物は、第200図に示した。27は瀬戸美濃系陶器の植木鉢である。28は、土壙に埋設されていた土師質土器の甕である。

第196号土壙 (第193・200図)

M-21グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は、長軸2.52m、短軸2.10m、深さ0.30mである。主軸方位は $N-20^\circ$ - Eを示す。断面形態は、皿形を呈する。

出土遺物は、第200図に示した。29は瀬戸美濃系陶器の碗である。内外面に灰釉を施軸する。18世紀前葉から中葉の所産である。

第202号土壙 (第193・200図)

M-23グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は、長軸1.48m、短軸1.25m、深さ0.51mである。主軸方位は、 $N-22^\circ$ - Wを示す。断

面形態は、皿形を呈する。第85号溝跡と重複し、これを壊している。M-23グリッド、ピット2と重複し、これを壊されている。

出土遺物は、第200図に示した。30は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。内外面に柿釉を施軸する。内面に重ね焼き痕が遺存する。18世紀後葉から19世紀前葉の所産である。遺構の北東よりから出土している。

第207号土壙 (第194・200図)

L-21グリッドに位置する。平面形態は方形である。規模は、遺存値で、長軸1.45m、短軸1.35m、深さ0.16mである。主軸方位は $N-11^\circ$ - Wを示す。断面形態は、皿形を示す。第208号土壙、第81・94号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

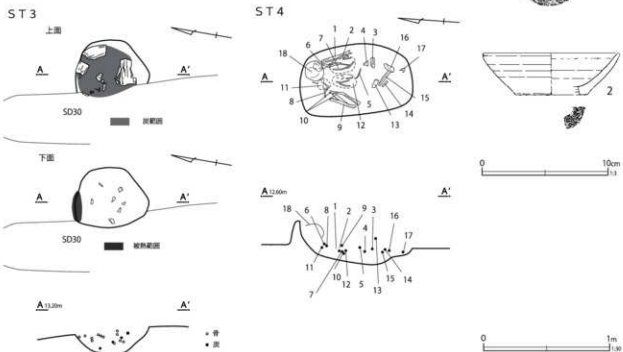
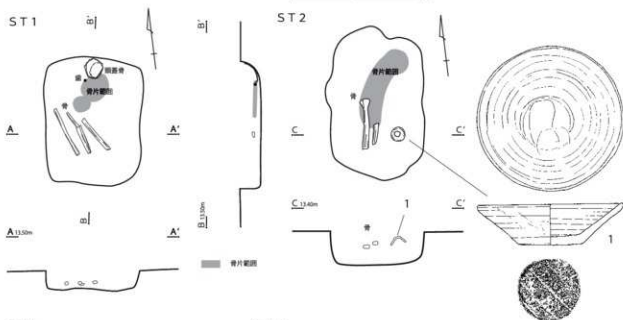
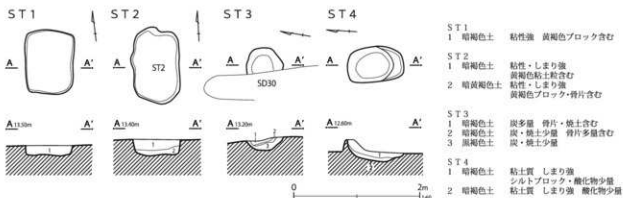
出土遺物は、第200図に示した。31は瀬戸美濃系陶器の碗である。内面に長石釉を施軸する。側面を打ち割り、円盤状製品に転用している。二次穿孔が認められる。17世紀前葉の所産である。32は京都信楽系陶器の碗である。18世紀後葉から19世紀初頭の所産である。33は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。内外面に柿釉を施軸する。18世紀後半から19世紀前葉の所産である。34は瀬戸美濃系陶器の鉢である。内外面に灰釉を施軸する。18世紀後葉から19世紀前葉の所産である。35は瀬戸美濃系陶器の水甕である。18世紀後葉から19世紀前葉の所産である。36は陶器の土瓶である。37は瓦質土器の火鉢である。外面はトビガナナ状工具により施文する。19世紀前葉の所産である。

(5) 墓跡

墓跡は、全部で4基検出された。第3号墓跡を除いて、いずれも土葬墓である。第1・2号墓跡は同一グリッド内に位置するものの、全体を見ると、分布が集中する様子はいかたがえ、調査区に散在している状態である。

第1号墓跡 (第202図)

F-6グリッドに位置する。平面形態は長方形



第202図 第1～4号墓跡

第17表 墓跡一覧表 (第202図)

遺構名	グリッド	平面形	長軸方位	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複遺構
ST1	F-6	長方形	N-10° -E	1.00	0.70	0.17	
ST2	F-6	不整形	N-0°	1.17	0.73	0.24	SK49 (古)
ST3	H-13	円形	N-25° -W	0.58	[0.46]	0.20	SD00 (新)
ST4	L-18	楕円形	N-4° -E	0.88	0.55	0.34	

第18表 墓跡出土遺物観察表 (第202図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	かわらけ	小皿	11.4	3.3	4.9	CEG	100	普通	浅黄橙	糸切痕 板目状圧痕 胎土粉質	
2	かわらけ	小皿	(10.6)	3.3	(5.7)	AM	20	良好	にぶい橙	底部糸切痕 胎土粉質	

で、規模は、長軸1.00m、短軸0.70m、深さ0.17mである。主軸方位はN-10° -Eを示す。断面形態は、箱形を呈する。遺構の北側には頭蓋骨や歯、骨片が位置し、南側には30~40cm程度の骨が位置する。これらの検出状況や遺構の規模より、本墓跡は土葬墓であり、被葬者は頭位を北にして屈葬されたものと想定される。

第2号墓跡 (第202図)

F-6グリッドに位置する。平面形態は、不整形で、規模は、長軸1.17m、短軸0.73m、深さ0.24mである。主軸方位はN-0° を示す。断面形態は、箱形を呈する。第49号土壌と重複し、これを壊している。遺構の北側から南側にかけて骨片が検出された。南側からは、およそ15~40cmの骨も検出されている。出土遺物は、第202図に示した。1・2はかわらけである。1は完形で、底部には板目状圧痕が認められる。検出状況や、遺構の規模より、本墓跡は、土葬墓であり、被葬者は頭位を北にして屈葬されたものと想定される。

第3号墓跡 (第202図)

H-13グリッドに位置する。重複遺構に西側を壊されており、平面形態は円形と想定される。規模は、遺存値で、長軸0.58m、短軸0.46m、深さ0.20mである。主軸方位はN-25° -Wを示す。断面形態は、碗形を呈する。第30号溝跡と重複し、これに壊されている。遺構の上面には炭の広がりが確認され、覆土中からは骨片が多く検出された。また、遺構の北側には、一部被熱する部分が認められる。出土した骨片については、自然科学分析

を実施した。分析の結果、骨片にはいずれも焼骨の特徴が認められた。被葬者は、小児(6~15歳程度)後半以降との結果を得たが、性別等の詳細は不明である。

骨片等の検出状況等を踏まえると、本遺構は火葬墓、あるいは火葬遺構と考えられる。

第4号墓跡 (第202図)

L-18グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は、長軸0.88m、短軸0.55m、深さ0.34mである。主軸方位はN-4° -Eを示す。断面形態は、碗形を呈する。

遺構の北側からは頭蓋骨が検出された。また遺構全体から、大小の骨が検出されている。これらの骨は、自然科学分析を実施したところ男性で、壮年期との結果を得た。

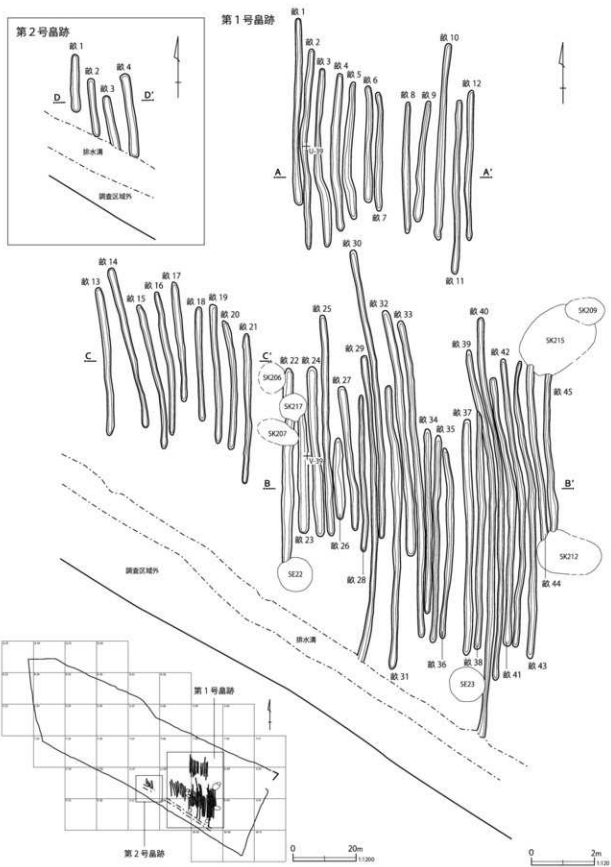
検出状況や、遺構の規模より、本墓跡は土葬墓であり、被葬者は、頭位を北にして屈葬されたものと想定される。遺物は出土しなかった。

(6) 畚跡

畚跡は、全部で3箇所検出された。調査区の西側に分布が集中しており、当該地区が耕作地であったことがうかがわれる。第1号畚跡より、器種不明の鉄製品が出土したほかは、遺物は出土しなかったため、詳細な時期は不明である。

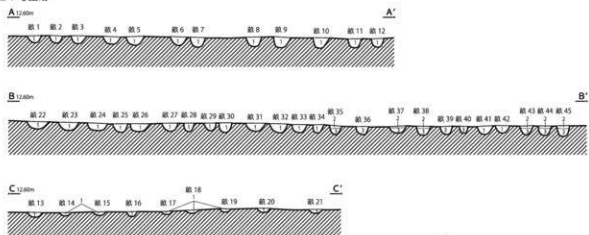
(7) ピット

ピットは、全部で292基検出された。遺物は出土しなかった。比較的小規模で、深さも浅いものが多い。柵列や建物跡などの上部構造を想定できるような配列も確認できなかった。

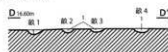


第203图 第1・2号晶跡 (1)

第1号畝跡



第2号畝跡



第1号畝跡 畝1～12

1 暗褐色土 粘土質 しまり強 黄白色土含む 一部水の影響により灰色をしている

畝22～45

1 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物を多量含む 一部水分により灰色化するものもあり

2 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物を少量含む

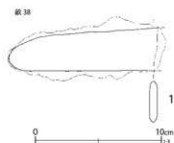
3 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物を少量含む 灰色粘土ブロックを少量含む

畝13～21

1 暗褐色土 粘土質 しまり強い 灰色土混じる

第2号畝跡 畝1～4

1 暗褐色土 粘土質 しまり強い 炭化物少量

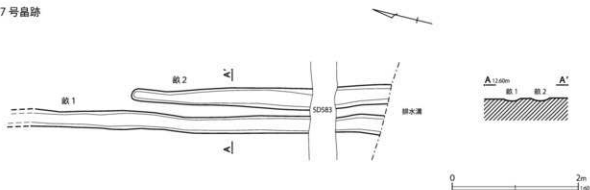


第204図 第1・2号畝跡(2)

第19表 畝跡出土遺物観察表(第204図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	図版
1	鉄製品	不明	[12.0]	[3.4]	0.6	160.1		

第17号畝跡



第205図 第17号畝跡

第20表 畠跡一覧表 (第203～205図)

番号	畠No.	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)
SL1	1	5.90	0.28	0.12
	2	6.32	0.22	0.11
	3	5.68	0.3	0.12
	4	4.98	0.28	0.12
	5	4.34	0.32	0.13
	6	3.68	0.3	0.12
	7	3.78	0.26	0.15
	8	4.18	0.22	0.13
	9	3.86	0.24	0.16
	10	6.22	0.28	0.15
	11	5.50	0.22	0.14
	12	4.74	0.2	0.13
	13	4.70	0.24	0.06
	14	5.20	0.24	0.06
	15	6.60	0.22	0.05
	16	4.56	0.22	0.05
	17	3.80	0.24	0.05
	18	3.60	0.22	0.06
	19	4.40	0.22	0.05
	20	4.08	0.2	0.06
	21	4.72	0.22	0.06
	22	[6.14]	0.38	0.11
	23	[3.80]	0.34	0.12
	24	5.40	0.35	0.1
	25	5.00	0.24	0.13

番号	畠No.	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)
SL1	26	2.54	0.34	0.11
	27	4.56	0.28	0.12
	28	4.92	0.14	0.12
	29	[9.76]	0.22	0.12
	30	9.14	0.22	0.15
	31	8.94	0.32	0.12
	32	7.82	0.30	0.13
	33	10.00	0.30	0.12
	34	5.86	0.20	0.12
	35	6.60	0.24	0.13
	36	6.00	0.22	0.13
	37	7.46	0.28	0.11
	38	7.54	0.24	0.14
	39	[12.96]	0.24	0.12
	40	11.50	0.22	0.10
	41	8.50	28.00	0.13
	42	9.10	0.24	0.10
	43	9.42	0.26	0.13
	44	[5.60]	0.24	0.15
	45	[5.00]	0.30	0.15
SL2	1	1.82	0.30	1.11
	2	1.84	0.20	1.10
	3	[1.78]	0.28	0.06
	4	2.66	0.30	0.05
SL17	1	[5.54]	[0.31]	0.04
	2	[4.09]	[0.34]	0.04

個別のピットについては、第21表に示し、覆土が記録されているものについては、第206・207図に断面図を示した。特徴的なものについては、以下に記すこととする。

H-8グリッド ピット1 (第206図)

平面形態は円形を呈する。規模は、長軸49cm、短軸45cm、深さ57cmである。断面形態は、U字形を呈する。覆土は炭化物を含み粘性の強い暗褐色土の1層と、炭化物を含み粘性の弱い暗褐色土の2層からなる。堆積状況から、1層は柱痕であり、本ピットは柱穴の可能性ある。

N-25グリッド ピット3 (第206図)

平面形態は、南西北東方向に長い楕円形である。規模は、長軸65cm、短軸40cm、深さ30cmである。断面形態は、逆台形を呈する。北東側にテラス状の浅い掘り込みを有する。

覆土は、炭化物、酸化鉄、黄褐色土ブロックを含み、粘性が強くしまりの弱い暗褐色土の1層と、

酸化鉄、黄褐色土ブロックを含み、粘性としまりの強い暗褐色土の2層からなる。

Q-29グリッド ピット1 (第207図)

平面形態は円形である。規模は、長軸65cm、短軸63cm、深さ15cmである。断面形態は、逆台形を呈する。

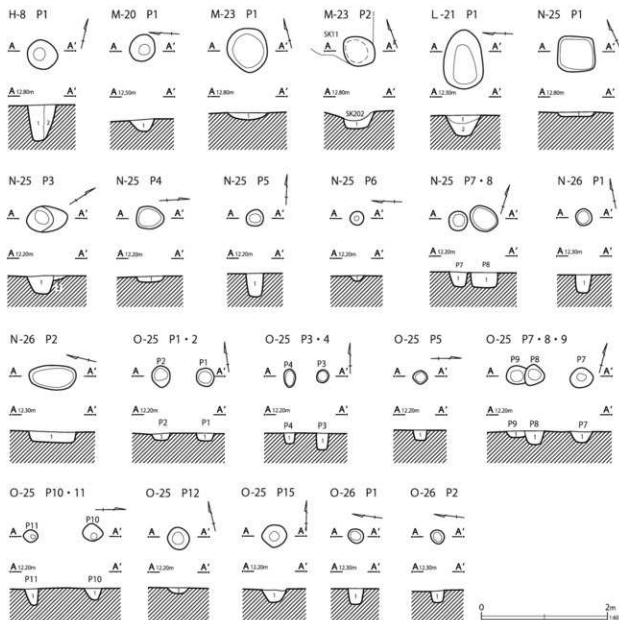
覆土は、酸化鉄、黄褐色土ブロックを含み、粘性が強い暗褐色土の単層である。

Q-31グリッド ピット1 (第207図)

平面形態は、楕円形である。規模は、長軸63cm、短軸53cm、深さ15cmである。断面形態は、皿形を呈する。覆土は、酸化鉄を含み、粘性の強い暗褐色土の単層である。

(8) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物のうち、出土位置が記録されているものについては、グリッド出土遺物として第208図に示し、一括で取り上げたものについては表採遺物として第209図に示した。



H-8 P1

- 1 暗褐色土 粘性強 炭化物含む 粒子粗い
2 暗黄褐色土 粘性弱 炭化物含む 粒子細かい

M-20 P1

- 1 灰褐色土 粘質 しまり強 酸化鉄多量 一部にシルトブロック含む

M-23 P1

- 1 褐灰色土 粘性強 しまりややあり 酸化鉄微量

M-23 P2

- 1 暗褐色土 粘性強 しまりあり 酸化鉄極微量

L-21 P1

- 1 明褐色土 粘質 しまり強 シルトブロック含む 酸化鉄少量
2 暗褐色土 粘質 しまり強 酸化鉄少量

N-25 P1

- 1 褐灰色土 粘性強 しまりあり 酸化鉄微量 炭化物粒極微量

N-25 P3

- 1 暗褐色土 粘性強 しまり弱 炭化物・酸化鉄微量 黄褐色土ブロック極少量

N-25 P4

- 2 暗褐色土 粘性強 しまり強 酸化鉄・黄褐色土ブロック少量

N-25 P4

- 1 暗褐色土 粘性強 しまりあり 酸化鉄・黄褐色土ブロック少量

N-25 P5 ~ 8

- 1 黒色土 粘質 しまりあり 酸化鉄・黄褐色土ブロック微量

N-26 P1

- 1 暗褐色土 粘性強 しまり強 酸化鉄少量 黄褐色土ブロック微量

N-26 P2

- 1 暗褐色土 粘性強 しまりあり 酸化鉄・黒褐色土ブロック少量 炭化物・粘土微量

O-25 P1・3・4・8・10 ~ 12

- 1 暗褐色土 粘性強 しまりあり 酸化鉄・黄褐色土ブロック少量

O-25 P2・5・7・9

- 1 黒色土 粘質 しまり強 シルトブロック少量 酸化鉄含む

O-25 P15

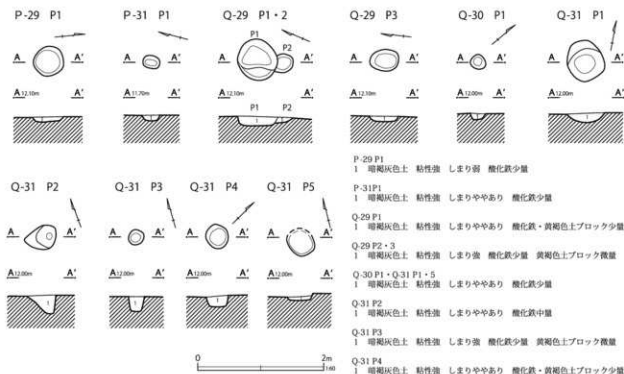
- 1 暗褐色土 粘性強 しまりややあり 酸化鉄少量

O-26 P1・2

- 1 黒色土 粘性強 しまり弱 酸化鉄少量



第206図 グリッドピット (1)



第207図 グリッドピット (2)

第21表 ピット一覧表 (第206・207図)

グリッド	番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	グリッド	番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	グリッド	番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
D-5	P1	21	18	17	E-6	P2	29	28	15	F-5	P21	24	22	29
	P2	32	29	13		P3	33	27	21		P22	38	32	16
	P3	38	34	10		P4	34	23	14		P23	53	43	37
E-5	P1	41	38	24		P5	27	19	6		P24	31	29	6
	P2	54	51	24		P6	34	27	9	F-6	P1	41	40	11
	P3	47	44	28	P7	29	26	5	P2		27	25	18	
	P4	32	26	21	P8	40	28	23	P3		32	28	16	
	P5	32	28	39	F-5	P1	55	44	9		P4	28	24	12
	P6	25	24	17		P2	24	24	7	P5	21	20	14	
	P7	41	41	18		P3	23	23	8	P6	29	27	29	
	P8	23	23	18		P4	32	25	21	P7	46	41	11	
	P9	35	33	17		P5	32	30	11	P8	26	23	9	
	P10	39	28	9		P6	34	33	16	P9	25	23	27	
	P11	37	37	18		P7	33	29	19	P10	24	23	22	
	P12	31	27	15		P8	28	34	10	P11	28	24	36	
	P13	32	29	30		P9	32	26	17	P12	33	25	25	
	P14	37	35	22		P10	34	27	31	P13	24	23	24	
	P15	36	31	34	P11	31	28	10	P14	46	43	22		
P16	36	17	16	P12	32	30	25	F-7	P1	32	30	11		
P17	36	29	34	P13	30	26	28		G-7	P1	40	39	11	
P18	31	30	16	P14	23	23	28	G-9	P1	49	33	22		
P19	34	28	16	P15	21	20	24		P2	21	20	5		
P20	52	43	29	P16	31	29	33		P3	35	33	9		
P21	27	25	24	P17	28	23	14	G-10	P1	32	24	15		
P22	29	27	18	P18	29	26	23		G-12	P1	28	27	14	
P23	26	24	17	P19	21	19	10	P2		29	26	15		
E-6	P1	32	28	28	P20	32	31	32		P3	27	22	17	

グリッド	番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
H-8	P1	49	45	57
H-9	P1	30	26	20
	P2	34	25	8
	P3	29	28	16
	P4	23	23	12
	P5	40	35	32
	P6	24	23	6
H-12	P1	39	34	7
	P2	30	27	20
	P3	30	26	12
	P4	21	17	7
H-13	P1	37	28	25
	P2	34	33	34
	P3	34	30	28
	P4	44	38	17
	P5	25	20	15
	P6	44	40	34
	P7	40	39	27
	P8	34	31	24
	P9	26	25	20
	P10	35	31	30
	P11	32	32	31
H-14	P1	39	35	6
	P2	53	44	21
	P3	28	27	21
H-15	P1	39	35	6
	P2	53	44	21
	P3	28	27	21
I-13	P1	20	19	14
	P2	30	30	11
	P3	30	26	17
	P4	20	18	11
	P5	25	21	15
	P6	27	25	13
	P7	26	20	15
I-14	P1	18	17	14
	P2	20	20	16
	P3	18	17	12
	P4	24	18	14
	P5	20	16	13
	P6	19	18	16
	P7	22	18	13
	P8	22	21	11
	P9	27	26	12
J-17	P1	52	51	8
	P2	38	37	22
	P3	57	53	16
L-18	P1	22	21	15
	P2	29	27	13
L-20	P1	57	52	4
	P2	30	26	8
L-21	P1	94	60	34
	P2	53	47	24
	P3	60	53	37

グリッド	番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
M-19	P1	35	32	19
M-20	P1	45	39	20
M-21	P1	38	31	12
	P1	37	30	26
	P2	45	30	18
	P3	51	40	34
M-22	P4	62	48	26
	P1	70	63	12
	P2	56	48	26
M-24	P1	55	48	10
N-23	P1	40	33	18
N-25	P1	57	55	8
	P2	55	45	38
	P3	65	40	30
	P4	44	35	10
	P5	27	25	38
	P6	23	21	9
	P7	31	30	24
	P8	47	38	25
N-26	P1	26	25	29
	P2	75	38	20
O-24	P1	43	37	25
	P2	33	30	20
	P3	37	31	17
O-25	P1	29	28	11
	P2	35	29	10
	P3	21	19	27
	P4	29	17	17
	P5	23	21	16
	P6	33	(20)	16
	P7	37	30	17
	P8	34	31	22
	P9	(29)	29	10
	P10	32	28	19
	P11	23	19	22
P12	36	33	9	
P13	43	36	20	
P14	39	35	19	
P15	40	35	22	
O-26	P1	24	22	25
	P2	23	20	20
	P3	22	21	25
	P4	27	26	21
P-29	P1	48	47	8
P-31	P1	28	20	9
Q-29	P1	65	63	15
	P2	(30)	25	10
	P3	46	35	8
	P4	(27)	(12)	10
Q-30	P1	25	23	10
Q-31	P1	63	53	15
	P2	53	36	29
	P3	26	24	24
	P4	39	35	19

グリッド	番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
Q-31	P5	(45)	(35)	8
R-35	P1	26	25	13
	P2	(37)	(20)	9
R-36	P1	20	17	7
	P2	18	15	5
S-34	P1	(32)	13	8
	P2	42	35	4
	P3	28	26	7
	P4	29	26	5
S-35	P1	20	20	7
	P2	31	26	6
	P3	29	28	6
	P4	(32)	(20)	2
S-36	P1	36	33	8
	P2	44	40	38
	P3	35	20	7
	P4	29	25	9
S-37	P1	33	30	6
	P2	45	28	10
T-35	P1	32	30	13
	P2	32	28	30
	P3	42	12	6
	P4	33	28	4
T-36	P1	(58)	(20)	12
	P2	44	32	3
	P3	45	38	15
	P4	23	17	9
T-37	P1	42	33	4
	P2	32	31	30
	P3	28	26	15
	P4	38	27	5
	P5	27	9	3
	P6	15	13	2
	P7	22	16	4
	P8	27	19	5
T-38	P1	33	21	7
	P2	25	22	7
	P3	23	17	5
	P4	24	24	10
	P5	30	27	15
T-39	P1	22	20	12
	P2	60	34	6
	P3	15	13	6
	P4	17	16	11
	P5	30	23	15
	P6	34	29	5
	P7	30	23	6
	P8	34	33	5
	P9	38	35	5
	P10	18	17	5
	P11	35	29	5
T-40	P1	33	29	5
	P2	35	30	5
	P3	58	14	5

グリッド	番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
T-40	P4	47	37	8
	P5	(50)	(22)	5
	P6	31	28	9
U-37	P-1	24	22	10
U-38	P1	24	30	14
	P2	47	30	9
	P3	44	24	5
	P4	25	18	5
	P5	56	23	6
	P6	25	25	6
U-39	P1	20	20	5
	P2	45	32	17
	P3	18	15	9
	P4	37	35	7
	P5	25	25	5
	P6	23	20	6

グリッド	番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
U-39	P7	16	14	6
	P8	17	17	6
U-40	P1	43	35	6
	P2	(22)	(18)	5
	P3	27	25	7
	P4	17	17	12
	P5	33	30	7
	P6	28	27	5
	P7	27	23	10
	P8	30	28	5
	P9	28	23	12
	P10	22	10	6
	P11	32	20	9
	P12	44	(20)	8
	P13	23	20	5
	P14	18	16	10

グリッド	番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	
U-40	P15	20	18	13	
	P16	20	17	16	
	P17	20	19	19	
	P18	15	14	11	
	P19	23	22	8	
	P20	28	22	4	
	P21	15	9	8	
	P22	52	32	4	
	V-39	P1	20	23	13
		P2	22	18	7
P3		26	21	11	
P4		25	21	16	
V-40	P1	34	24	11	
	P2	22	32	7	
	P3	50	21	3	
	P4	19	25	20	
W-40	P-1	19	19	3	

グリッド出土遺物

2・3はG-6グリッドより出土した。2は古瀬戸の御皿である。内外面の口縁部に灰軸を施軸する。後期様式の製品であり、14世紀末葉から15世紀初頭の所産である。3は磁器の皿である。中国漳州窯系の製品であり、内外面に染付を施す。16世紀後葉から17世紀初頭の所産である。

6～8はH-10グリッドより出土した。6は古瀬戸の平碗である。後期様式の製品である。7は肥前系陶器の鉢である。内外面に施軸する。17世紀代の所産である。8は焙烙である。

11～14はL-20グリッドより出土した。11は肥前系陶器の碗である。17世紀中葉から後葉の所産である。12は肥前系陶器の碗である。外面に鉄軸を施軸する。17世紀後葉の所産である。13は志戸呂系陶器の灯明皿である。内外面に鏽軸を施軸する。18世紀前葉から中葉の所産である。14は志戸呂系陶器の香炉である。内面上位から外面に灰軸を施軸する。16世紀後葉の所産である。

15は瀬戸美濃系磁器の碗である。L-21グリッドより出土した。内外面に染付を施す。19世紀前葉から中葉の所産である。

16は肥前系陶器の碗である。L-22グリッドより出土した。17世紀後葉から18世紀初頭の所産で

ある。

17は瀬戸美濃系陶器の徳利である。M-19グリッドより出土した。外面に柿軸を施軸する。18世紀後葉から19世紀前葉の所産である。

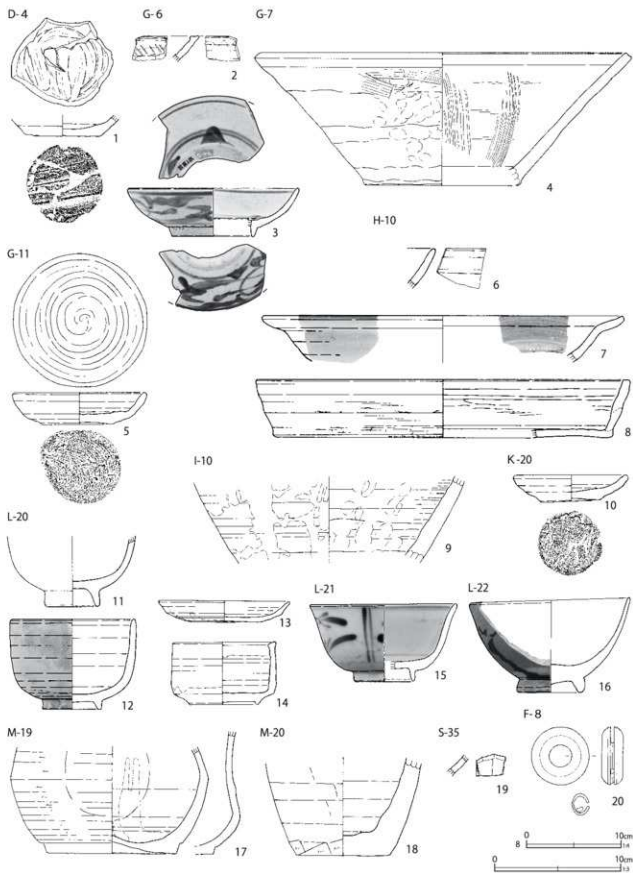
19は青磁の碗である。S-35グリッドより出土した。内外面に青磁軸を施軸する。大宰府青磁碗Ⅱ類に相当し、13世紀中葉から14世紀初頭の所産である。

20は銅製品の鳴輪である。F-8グリッドより出土した。

表探遺物

1～3は青磁の碗である。1は中国同安窯系の製品であり、12世紀中葉から後葉の所産である。2・3は中国龍泉窯系の製品である。内外面に青磁軸を施軸する。2は外面には蓮弁文を施す。大宰府青磁碗Ⅱ類に相当し、13世紀中葉から14世紀初頭の所産である。

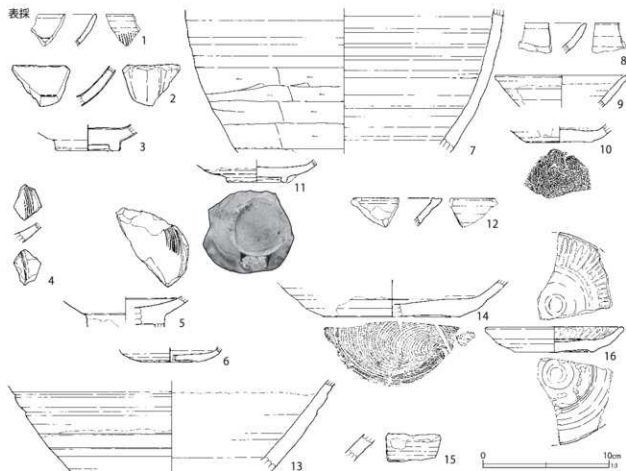
4・5は白磁の碗である。4は中国南部産の製品で、内面に櫛目文を施す。大宰府白磁碗V-4b類に相当し、11世紀後葉から12世紀前葉の所産である。5も中国南部産の製品である。大宰府白磁碗V-4b類に相当し、12世紀中葉から後葉の所産である。6は白磁の皿である。中国龍泉窯系の製品である。大宰府白磁碗Ⅶ-1類に相当し、13



第208図 グリッド出土遺物

第22表 グリッド出土遺物観察表 (第208図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	かわらけ	小皿	-	[1.4]	5.9	-	80	普通	淡橙	D-4	SD24 底部板目状瓦痕 胎土粉質	F-6
2	陶器	御皿	-	[2.0]	-	EI	5	良好	灰白	G-6	SD37 古瀬戸 内面御目 後期様式 14C末~15C初	
3	磁器	皿	(13.4)	3.8	(6.4)	HIK	15	普通	灰黄	G-6	中国漳州窯系 内外面施釉 染付 内面蛇目状釉割 16C後~17C初	F-7
4	瓦質土器	播鉢	(28.9)	10.4	(12.0)	AEIK	10	良好	にぶい黄橙	G-7	内面播目 糠十	
5	かわらけ	小皿	10.3	2.5	5.7	CHIK	100	普通	橙	G-11	C11G%1 底部糸切痕(左) 胎土砂質	H-10
6	陶器	平碗	-	[3.2]	-	I	5	良好	灰白	H-10	古瀬戸 後期様式 内外面灰釉	
7	陶器	鉢	(28.5)	[3.7]	-	IK	5	良好	灰白	H-10	肥前系 底部付近に緑釉或掛 17C	I-10
8	瓦質土器	培鉢	(39.4)	6.1	(35.3)	CHIK	15	普通	灰白	H-10	底部シワ状痕 外面煤少量付着	
9	陶器	四耳壺	-	[6.8]	-	I	10	良好	灰白	I-10	古瀬戸 外面灰釉	K-20
10	かわらけ	小皿	8.6	2.1	4.6	CEHK	98	良好	浅黄橙	K-20	底部糸切痕(左) 胎土砂質	
11	陶器	碗	-	[5.6]	4.0	K	40	良好	浅黄橙	L-20	肥前系 内外面灰釉 17C中~後	L-20
12	陶器	碗	(9.6)	7.1	4.6	IK	55	良好	灰白	L-20	肥前系 外面鉄軸 17C後(京風碗)	
13	陶器	灯明皿	10.4	1.7	5.2	IK	55	良好	にぶい黄橙	L-20	志戸呂系 内外面錆軸 18C前~中	L-20
14	陶器	香炉	(7.9)	4.9	5.3	DI	40	良好	灰黄	L-20	志戸呂系 内外面灰釉 16C後	
15	磁器	碗	(11.4)	6.1	(4.6)	-	40	普通	灰白	L-21	瀬戸美濃系(陶反碗) 染付 19C前~中	L-22
16	陶器	碗	(12.6)	7.2	4.9	H	40	普通	灰白	L-22	肥前系 外面黒緑軸 17C後~18C初	
17	陶器	徳利	-	[9.8]	10.2	I	40	普通	にぶい黄橙	M-19	瀬戸美濃系 外面錆軸 底部ふきとり 18C後~19C前	M-20
18	瓦質土器	壺	-	[7.8]	(7.4)	DEHK	25	普通	灰白	M-20	底部へラナデ 内面黒色物質付着	
19	磁器	碗	-	[1.7]	-	K	5	良好	灰白	S-35	青磁 内外面青磁軸 外面蓮弁文 大宰府青磁輪目類 13C中~14C初	F-8
20	銅製品	鳴輪	-	-	-	-	-	-	-	F-8	内部の丸石(小礫)9個	



第209図 表採遺物

第23表 表採遺物観察表 (第209図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	-	[2.5]	-	I	5	良好	灰白	青磁 1次表採 中国同安窯系 12C中～後	
2	磁器	碗	-	[3.2]	-	I	5	普通	黄灰	青磁 1次東側表採 中国龍泉窯系 内外面青磁釉 外面薄弁文 大宰府青磁類Ⅱ類 13C中～14C初	
3	磁器	碗	-	[2.1]	4.8	-	20	良好	灰白	青磁 1次中央区確認面 中国龍泉窯系 内外面青 磁釉 大宰府青磁類Ⅱ類 13C中～14C初	
4	磁器	碗	-	[1.7]	-	K	5	普通	灰白	白磁 1次中央区確認面 中国南部産 内外面施釉 内面糊目文 大宰府白磁類Ⅴ-4b類 13C 11C後～12C前	
5	磁器	碗	-	[2.4]	-	K	20	良好	灰白	白磁 1次中央区確認面 中国南部産 内外面施釉 内面糊目文 大宰府白磁類Ⅴ-4b類 12C中～後	
6	磁器	皿	-	[1.2]	(4.4)	K	20	普通	灰白	白磁 1次鷺神社西堀 中国龍泉窯系 内外面施釉 大宰府白磁類Ⅷ-1類 13C	
7	陶器	四耳壺	-	[11.4]	-	D	10	良好	灰白	4次表採 I区二面覆土 古瀬戸 外面灰釉 前期様式 13C	
8	陶器	平碗	-	[2.4]	-	I	5	普通	灰黄	2次表採試掘1 古瀬戸 内外面灰釉 後期様式 15C前	
9	陶器	縁袖小皿	(10.4)	[2.5]	-	HK	10	普通	浅黄橙	1次東側調査区表土 古瀬戸 口縁部鉄釉 後期様式 15C前～中	
10	陶器	縁袖小皿	-	[1.4]	5.1	IK	25	良好	灰白	1次鷺神社西堀 古瀬戸 底部糸切痕(右) 内外面 灰釉 内面使用による摩耗 後期様式 15C前～中	
11	陶器	皿類	-	[1.8]	(4.6)	D	20	良好	灰白	2次試掘跡試掘2 古瀬戸 底部糸切痕 内外面灰釉 外面塗内付着物 14C後～15C初	
12	陶器	鉤皿	-	[2.2]	-	IK	5	普通	淡黄	1次鷺神社西堀 古瀬戸 内外面灰釉 後期様式 14C後～15C前	
13	陶器	折縁深皿	-	[7.2]	-	I	5	良好	灰白	1次中央区確認面 古瀬戸 内外面灰釉(内面下位 刷毛塗) 後期様式 15C前	
14	陶器	折縁深皿	-	[3.0]	(10.9)	-	20	良好	灰白	1次鷺神社西堀 古瀬戸 底部糸切痕(右) 内外面灰釉 中期様式 14C	
15	陶器	盤類	-	[2.2]	-	EK	5	良好	黄灰	1次鷺神社西堀 古瀬戸 内外面灰釉 後期様式 14C後～15C	
16	陶器	内壳皿	(10.7)	2.0	(6.1)	H	30	普通	淡黄	1次鷺神社西堀 瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面底 部釉剥ぎ 高台内抜き取り 内面体部しぎ状施 文 大塚段階 16C末～17C初	

世紀代の製品である。

7～15は古瀬戸である。7は四耳壺である。前期様式の製品で、13世紀代の所産である。8は平碗である。後期様式の製品であり、15世紀前葉の所産である。

9・10は縁袖小皿である。9は口縁部に鉄釉を施釉する。後期様式の製品であり、15世紀前葉から中葉の所産である。

11は皿類である。14世紀後葉から15世紀初頭の所産である。12は鉤皿である。内外面に灰釉を施釉する。後期様式の製品であり、14世紀後葉から15世紀前葉の所産である。

13・14は折縁深皿である。13は後期様式の製品であり、内外面に灰釉を施釉する。15世紀前葉の所産である。14は、底部は回転糸切であり、内外面に灰釉を施釉する。中期様式の製品であり14世紀代の所産である。

15は盤類である。内外面には、灰釉を施釉する。後期様式の製品であり、14世紀後葉から15世紀代の所産である。

16は瀬戸美濃系陶器の内壳皿である。大塚段階の製品であり、16世紀末葉から17世紀初頭の所産である。

V 自然科学分析

1 宮西遺跡（第3次調査）の自然科学分析

1 はじめに

本報告書では、調査区内の堆積中のテフラの産状を明らかにすることにより、遺跡の立地する堆積層の年代や変遷に関わる資料を作成する。また、堆積層の花粉分析を行うことにより、古植生変遷についても検討する。さらに、井戸跡から出土した木製品の樹種同定を行うことにより、当時の用材についても考察する。

2 層序対比および古植生

(1) 試料

試料は、調査区北壁中央付近の堆積層（1地点）と、調査区東側より検出された井戸跡S E68の断面確認のために設定されたトレンチ壁面の堆積層（2地点）、さらにS E68掘方下部に認められた堆積層（S E68掘方）の3箇所より採取した土壌である。

(イ) 1地点

本地点は、調査区北壁のほぼ中央部に位置する。本地点では、上記した白色を呈する軽石様の砕屑物が混じる堆積物（試料番号1～4）、掘込み内に認められた灰～灰白色を呈する砕屑物（試料番号5・6）、さらに暗灰色シルト上面より層厚25cm程度の堆積物（試料番号7～11）の、11試料を採取している。試料の採取位置は、第210図に示した模式柱状図に併記した。

(ロ) 2地点

本地点は、S E68の断面面に相当する。本地点では、堆積層下部の泥層と、中～上部の軽石様の砕屑物が混じる堆積物等を主体として土壌を採取している。資料の採取位置は、図に示した模式柱状図に併記したので、参照されたい。

(ハ) S E68掘方

本地点は、S E68下部の壁面（掘方）に確認さ

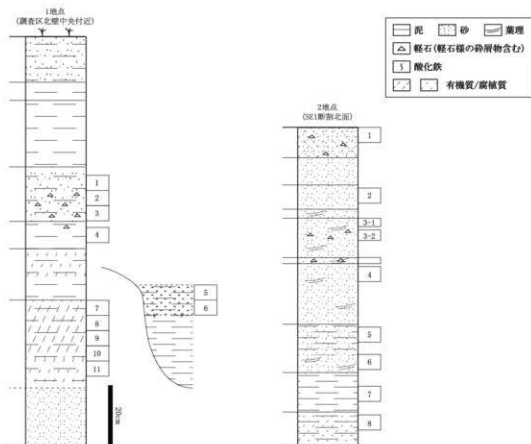
れる基本土層に相当する。2地点の最下部より続く泥（シルト～粘土）層のうち、現地で確認できる最深部にあたる。

本地点では井戸跡内での湧水が著しく詳細な観察が困難であったため、不攪乱の柱状ブロックとして、上記した砕屑物と上・下部のシルト（S E68掘方；試料番号6）を採取している。なお、室内での観察の後、砕屑物より上位の灰色シルトを試料番号6-1、同下位の暗褐色シルトを6-3、さらにテフラ様の砕屑物を試料番号6-2として、それぞれ抽出した。試料の状況は第216図に示した。以上の（イ）～（ハ）に記した試料のうち、テフラの検出同定には、1地点では、軽石様の砕屑物が認められた試料2・5・6および暗灰～灰色シルトに相当する試料番号7・9・11の6点と、2地点（S E68断面）の試料番号1と3-2の2点、さらにS E68掘方の試料番号6-2を供した。また、花粉分析には、2地点のやや有機質な暗褐色シルト～粘土（試料番号8）とS E68掘方の上記したテフラ様の砕屑物の上・下部のシルト（試料番号6-1、6-3）の3点を供した。

(2) 分析方法

(イ) テフラの検出同定・屈折率測定

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状



第210図 各地点の模式柱状図および試料採取位置

の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに軽石または火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

(ロ) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残液をグリセリンで封入してプレパラートを作製

し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中村（1980）等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類を一で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(3) 結果

(イ) テフラの検出同定・屈折率測定

結果を第24表に示す。スコリアおよび火山ガラスはいずれの試料においても認められない。軽石

は、1地点の試料番号5・6およびSE68掘方の試料番号6-2に中量含まれ、1地点の試料番号2と2地点の試料番号3-2には少量、1地点の試料番号9と2地点の試料番号には微量、1地点の試料番号7・11には極めて微量含まれる。

1地点の試料番号2・5・6の軽石は、最大径約2.0~2.5mm、白色を呈し発泡はやや良好なものも多く、それより少量の灰白色を呈し発泡度が良好なものを併い、さらに灰褐色を呈し発泡やや不良の軽石と白色で発泡やや不良な軽石とが微量混在する。灰白色の軽石と灰褐色の軽石には斜方輝石の斑晶を含有するものも認められる。SE68掘方の試料番号6-2に認められた軽石は、最大径約3.0mm、白色を呈し発泡不良なものと同色で発泡やや良好なものも少量含まれる。いずれの軽石にも角閃石の斑晶を含有するものが認められる。1地点の試料番号7・9・11と2地点の試料番号1・3-2の各試料に含まれる軽石は、白色で発泡不良、角閃石の斑晶を含有する軽石である。

屈折率の測定は、1地点試料番号2・6と、SE68掘方の試料番号6-2のいずれも軽石を対象とした。測定結果を第211図に示す。1地点の試料番号2の軽石は、n₁.504-1.511、n₁.514-1.522、n₁.526-1.528の3つのレンジが認められ、1地点の試料番号6の軽石においても、n₁.502-1.506、n₁.509-1.515、n₁.521前後の3つのレンジが認められる。一方、SE68掘方の試料番号6-2の軽石は、1.501-1.505のレンジを示し、モードはn₁.502-1.504である。

(ロ) 花粉分析

結果を第25表、第212図に示す。花粉化石は、いずれの試料からも産出するが、産状や保存状態は試料により異なる。

SE68掘方の試料番号6-1は、花粉化石の保存状態が普通程度で、木本花粉がやや多く認められる。木本花粉ではコナラ属コナラ亜属、コ

ナラ属アカガシ亜属が多く産出し、ツガ属、スギ属、クマシデ属-アサダ属、ブナ属、ニレ属-ケヤキ属等を伴う。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科が多く、ガマ属、クワ科、ヨモギ属等が認められる。ガマ属の他にも、ミクリ属、オモダカ属、ゴキツル属、サンショウモ等の水湿地生植物も確認される。

試料番号6-3は、花粉化石の保存状態がやや不良であり、木本花粉の優占で特徴付けられる。木本花粉ではモミ属、ツガ属、マツ属、ブナ属等が多く産出し、トウヒ属、カバノキ属、ハンノキ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属等を伴う。草本花粉は少ないながらも、イネ科、ヨモギ属等が認められる。

2地点の試料番号8では、花粉化石の保存状態が悪く、シダ類胞子が多く産出する。木本花粉はモミ属、ツガ属、トウヒ属、マツ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属等が多く認められる。草本花粉ではイネ科が優占し、その他ではカヤツリグサ科、サナエタデ属-ウナギツカミ節、キク亜科等を併い、わずかではあるが、水生シダ類のデンジソウ属も確認された。

(4) 考察

(イ) テフラの同定

1地点の試料番号2・5・6では色調からみると灰白色、灰褐色、白色の3種類の軽石が識別されたが、屈折率においても、試料番号2・6では3つのレンジが認められた。これらのことから、3種類の軽石は、それぞれ異なるテフラに由来する軽石であると考えられる。

各試料で最も多い軽石である灰白色の軽石は、その発泡度と斜方輝石の斑晶を包有することから、江戸時代の天明3(1783)年に浅間火山から噴出した浅間Aテフラ(A_s-A:新井, 1979)に由来すると考えられる。試料番号6における軽石の屈折率のうち、中間のレンジの値は、町田・新井

第24表 テフラ分析結果

地点名	試料番号	スコリア		軽石			備考
		量	量	量	色調・発泡度	最大粒径	
1地点	2	-	-	++	Gf・sg(opa)GB r・sh(opa)>>W・b(ha)	2.5	砂粒の主体は、白色を呈する斜長石の鉱物粒。白色または無色透明の石英粒や有色鉱物である斜方輝石や単斜輝石の鉱物粒が混在し、極めて微量の角閃石の鉱物粒と、他に暗灰色の岩片も微量。
	5	-	-	+++	Gf・sg(opa)GB・g(opa)>>GB r・sh(opa), W・sh	2.0	
	6	-	-	+++	Gf・sg(opa)GB・g(opa)>>GB r・sh(opa), W・sh	2.0	
	7	-	-	(+)	W・b(ha)	1.5	
	9	-	-	+	W・b(ha)	1.5	
	11	-	-	(+)	W・b(ha)	1.8	
2地点	1	-	-	+	W・b(ha)	2.7	同上
	3-2	-	-	++	W・b(ha), W・sh(ha)	2.0	同上
SE68 堀方	6-2	-	-	+++	W・b(ha), W・sh(ha)>>W・sg(ha)	3.0	同上

凡例

-:含まれない, (+):きわめて微量, +:微量, ++:少量, +++:中量, ++++:多量。

W:白色, Gf:灰白色, GB:灰褐色, g:良好, sg:やや良好, sh:やや不良, b:不良。

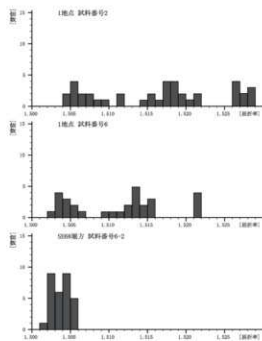
(opa):斜長石斑晶包有, (ha):角閃石斑晶包有, 最大粒径は μm 。

(2003) による $A_s - A$ の値にほぼ重なる。なお、試料番号2における中間のレンジの値は、試料番号6に比べるとやや高い方にずれているが、これは、軽石の風化による変質（いわゆる水和）によって、値が変化した可能性がある。

灰褐色の軽石については、その色調と発泡度および斜方輝石の斑晶を包有することから、平安時代の天仁元（1108）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（ $A_s - B$:新井, 1979）に由来すると考えられる。試料番号6と試料番号2の軽石の屈折率のうち、高屈折率のレンジが $A_s - B$ の値にほぼ重なっている。白色の軽石については、その色調と発泡度および低屈折率のレンジに相当すると考えられることから、下記のSE68堀方の試料番号6-2の軽石と同様のテフラに由来すると

考えられる。

SE68堀方の試料番号6-2の軽石は、色調や発泡度、角閃石の包有、さらにその屈折率から、古墳時代に榛名火山から噴出したテフラである榛名二ツ岳涉川テフラ（ $H_r - F A$ ）または榛名二ツ岳伊香保テフラ（ $H_r - F P$ ）（新井, 1979; 早田, 1989）のいずれかに由来すると考えられる。 $H_r - F A$ は火砕流の噴出を主体とする活動であり、分布域は給源から東方に広がり、遠隔地では細粒の火山ガラスを含むことを特徴とする。 $H_r - F P$ は軽石噴火を主体とする活動であり、その分布軸は北東方向に向いており、遠隔地においても軽石として認められている（早田, 1989）。今回検出された軽石は、 $H_r - F A$ に伴う細粒の火山ガラスがほとんど認められないことやその屈折



第211圖 軽石屈折率

率が町田・新井(2003)のHr-FPとほぼ一致することから、Hr-FPに由来する可能性がある。なお、テフラの噴出年代は、Hr-FAが5世紀末から6世紀第1四半期ぐらいまで(坂口、1993;中村ほか、2008)、Hr-FPが6世紀第2四半期頃(坂口、1993)にそれぞれ噴出したとされている。1地点の試料番号7・9・11と2地点の試料番号1・3-2の各試料に含まれる軽石は、その色調と発泡度および角閃石斑晶が包有されることから、同様にHr-FPに由来する可能性があると考えられる。

(ロ) 層序対比

1) 調査区北壁

溝跡の構築されている暗灰色泥層にはHr-FPに由来する軽石が微量かつ広い層位にわたって含まれている状況が確認された。したがって、この泥層は、6世紀以降に堆積したことが推定される。ただし、As-Bに由来する軽石が認められなかったことから、新しくとも12世紀以前の年代であることが推定される。

第25表 花粉分析結果

種 類	SE68		
	断削	掘方	
	8	6-1	6-3
木本花粉			
マキ属	2	1	-
モミ属	10	7	46
ツグ属	10	11	18
トウヒ属	6	4	10
マツ属早熟管束亜属	2	2	11
マツ属晩熟管束亜属	6	5	5
マツ属(不明)	12	1	22
コウヤマキ属	1	-	-
スギ属	2	27	1
イチイ科-イヌギヤク-ヒノキ科	-	10	-
ヤマモミ属	-	1	-
サツグルミ属	3	5	5
クルミ属	1	1	-
クマシラ属-アサダ属	3	16	4
カバノキ属	2	8	7
ハンノキ属	3	7	9
ブナ属	15	18	36
コナラ属コナラ亜属	19	45	15
コナラ属アカシヤ属	7	48	5
クリ属	-	1	-
ニレ属-クヤキ属	2	18	8
エノキ属-ムクノキ属	1	3	1
ノブドウ属	-	1	-
シナノキ属	1	-	2
ウコギ科	-	1	2
ツツジ科	2	-	4
イボタノキ属	-	-	1
タニツツジ属	-	-	1
草本花粉			
ガマ属	-	3	-
ミクリ属	-	1	-
オモダカ属	-	1	-
イネ科	124	79	5
カヤツグ科	9	24	1
クワ科	-	5	1
ササユダ属-ウナギツカミ属	7	2	1
アカザ科	-	1	1
サザン科	3	-	-
アラナ科	1	-	-
バラ科	-	1	1
ゴキウ属	-	2	-
ヨモギ属	2	9	13
オナモミ属	-	1	-
キク亜科	5	1	1
タンポポ科	-	1	-
不明花粉			
不明花粉	5	9	12
シダ類胞子			
ヒカゲノカズ属	2	-	1
デンジソク属	3	-	-
ゼンマイ属	-	1	-
イノモトソク属	-	-	1
サンショウモ	-	6	-
他のシダ類胞子	127	41	81
合 計			
木本花粉	110	241	213
草本花粉	151	131	24
不明花粉	5	9	12
シダ類胞子	132	48	83
合計(不明を除く)	398	429	320

一方、溝跡の掘り込みの埋積物中にはAs-Aを主体とする軽石が比較的多く含まれている状況が確認された。このAs-Aの軽石は、Hr-FPやAs-Bも伴うことから、降下堆積物ではなく溝内に流れ込んだ再堆積物であると考えられる。すなわちその堆積年代は、18世紀以降という年代が推定される。

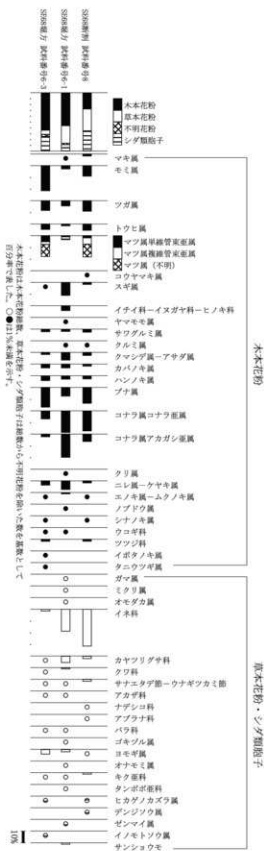
2) SE68掘方

試料番号6-2を採取したレンズ状に挟在する堆積物は、Hr-FPに由来する可能性がある軽石が多く含まれることが確かめられた。その産状から、多少攪乱を受けながらも、降下堆積した層位を保っていると考えられる。したがって、SE68掘方の堆積層下部は、古墳時代の6世紀中頃の堆積年代が与えられる。

(ハ) 古植生

SE68掘方下部の試料についてみると、試料番号6-3では、モミ属、ツガ属、マツ属、ブナ属が多く産出し、トウヒ属、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属等を伴う。このうち、モミ属、ツガ属等は周辺の山地部に生育していたと推定され、特にトウヒ属、マツ属単維管束亜属、ブナ属などは比較的標高のある山地の森林植生に由来すると考えられる。また、山地下部や低丘陵地、比較的安定した微高地にはコナラ亜属等が分布しており、渓谷沿いや河畔等にはハンノキ属、ニレ属-ケヤキ属をはじめとして、サワグルミ属、クマシデ属-アサダ属、エノキ属-ムクノキ属、シナノキ属等が林分を形成していたと考えられる。また、ウコギ科、ツツジ科、イボタノキ属、タニウツギ属等は、これらの林分の林縁に生育したと考えられる。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属など、開けた明るい場所に草地を形成する種群が認められることから、調査地周辺の草地環境等に由来すると思われる。

テフラを挟み、上位に相当する試料番号6-1では、モミ属、ツガ属、トウヒ属、マツ属等



第212図 花粉化石群集

の針葉樹、ブナ属等の落葉広葉樹の割合が減少し、スギ属、コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属の出現率が高率となる。その他にも、クマシデ属アサダ属、ニレ属ケヤキ属などの割合もやや増加する。本層堆積時になると周辺山地部（特に標高のある場所）に生育していた種類ではなく、山地下部や低丘陵地、微高地等に生育するコナラ亜属やアカガシ亜属、溪谷沿いや河畔等に生育するクマシデ属アサダ属、ニレ属ケヤキ属等の植生を、より強く反映するようになった可能性がある。草本類ではイネ科、カヤツリグサ科が多産した。その他では、ガマ属、ミクリ属、オモダカ属、ゴキヅル属、サンショウモ等の水湿地や水辺に生育する花粉・胞子が検出された。多産するイネ科、カヤツリグサ科にも水湿地に生育する種類が含まれるため、これらの草本、シダ類が生育する水湿地が調査地周辺に存在したことが窺える。

SE68断割の堆積層下部に相当する試料番号8は、花粉化石の保存状態がやや悪い。一般的に花粉やシダ類胞子は、腐蝕に対する抵抗性が種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている（中村、1967；徳永・山内、1971；三宅・中越、1998など）。検出された種類をみると、木本類ではモミ属、ツガ属、トウヒ属、マツ属などの針葉樹が比較的多く認められる他、シダ類胞子も多く産出する。また、木本類・草本類のいずれも、比較的分解に強い花粉や、分解が進んでも同定可能な花粉が検出されている。以上の点から、今回検出された花粉・シダ類胞子化石は、堆積時に取り込まれた花粉が、その後の経年変化により分解・消失し、分解に強い花粉が選択的に残されたと考えられる。

試料番号8から検出される木本類をみると、前述したSE68掘り方基本土層と同様の種群が見られることから、同様の植生が継続していたと思われる。草本類では、イネ科が優占し、カヤツリ

グサ科、サナエタデ節ーウナギツカミ節、キク亜科等の開けた場所に生育する種類が多く認められる。上述した経年変化等の影響を考慮しても、草本類の割合が高いことから、調査地周辺ではこれらの草本類が生育する明るく開けた領域が拡大した可能性がある。なお、隣接する宮東遺跡の古墳時代から古代にかけての河道埋積物の花粉分析からも、今回と同様の周辺植生が想定されている。また、本遺跡の北方に位置する茂林寺沼を含む池沼群（群馬県館林市）の調査成果によれば、おそらく約2300年前～12世紀末は、コナラ亜属やクマシデ属アサダ属などの落葉広葉樹とアカガシ亜属が卓越する時期であったとされている（辻ほか、1986）。これらのことから、コナラ亜属、アカガシ亜属等は、周辺の山地下部～微高地にかけての森林植生を反映していると考えられる。

3 木製品の樹種同定

(1) 試料

試料は、複数の井戸跡内から出土した木製品、木材等の4点である。

(2) 分析方法

試料の木取りを観察した後、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレバラートとする。プレバラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995、1996、1997、1998、1999）を参考にする。

(3) 結果

同定結果を第26表に示す。木製品は、針葉樹1分類群(スギ)と広葉樹2分類群(クリ・ヤマグワ)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don)

スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的大い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で、孔圈部は3-5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2-4個が複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。

(4) まとめ

分析に供された木製品や木材は、SE71から出土した底板、SE80から出土した鍛身、さらに鍛と共に出土した丸木材、SE119から出土した部材である。これらの木製品には、スギ、クリ、ヤマグワの3分類群が認められた。針葉樹のスギは、谷筋等の水分の多い土地に生育する常緑高木であり、木材は木理が直道で割裂性が高い。広葉樹のクリは、二次林等に生育する落葉高木であり、木

第26表 樹種同定結果

遺構	試料名	器種	木取り	種類 (分類群)
SE71	木製品	底板	板目	スギ
SE80	クワ	鍛身	柁目	クリ
SE80	クワ中の丸木	丸木	芯持丸木	ヤマグワ
SE119	№1	部材	芯持丸木	クリ

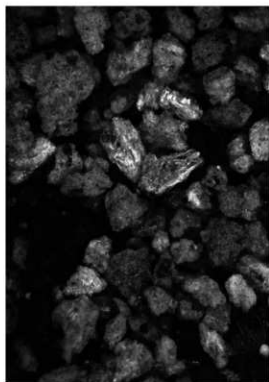
材は重硬で強度・耐朽性が高い。ヤマグワは、河畔等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度・耐朽性が比較的高い。

SE71の木製品は、容器の底板と考えられる半円形の板材である。板目板で、板幅のほぼ中央付近に樹芯に近い位置がある。半円形の直径にあたる断面に釘穴と思われる痕跡があり半円形の部材2枚を組み合わせて円形板としていた可能性がある。また、容器内面側と思われる面には黒色の塗布物が認められる。板材にはスギが認められ、板状加工が容易な木材利用が推定される。

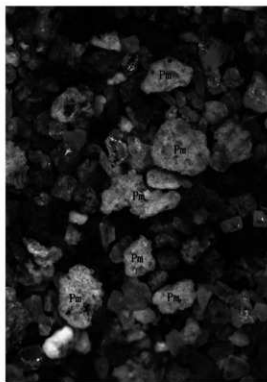
SE80から出土した鍛身は、柁目板状を呈し、方形の柄穴が認められる。鍛身にはクリが認められたことから、強度や耐朽性の高い木材の利用が考えられる。また、鍛と共に出土した丸木は、小径の芯持丸木であり、樹皮も残存する。本資料はヤマグワに同定された。

SE119から出土した部材は、芯持丸木であり、一方の端部に脛が認められることから、組合わせて利用したと考えられる。クリが確認されたことから、強度を要する用途・部位に利用された可能性がある。

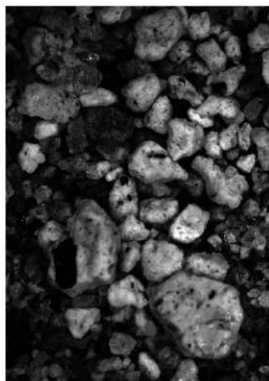
なお、SE74とSE80からはヒョウタン類の果皮が出土している。ヒョウタン類の果皮は、そのまま形で容器として利用したり、半裁して杓子として利用する例がある。SE74資料は小片の破片で、全体の形状の復元には至らず、用途の検討は難しい。また、SE80資料も破片であるが下半部がほぼ復元でき、半裁されている状況は確認できないことから、本来の形状のまま利用された可能性がある。



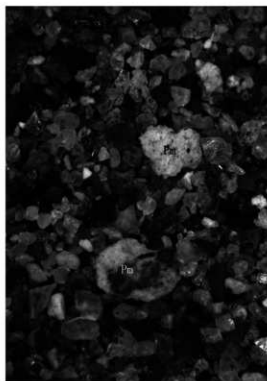
1. As-Aの軽石(1地点 試料番号6)



2. 砂分の状況(1地点 試料番号9)



3. 古墳時代有名な火山テフラの軽石
(SE68掘方 試料番号6-2)

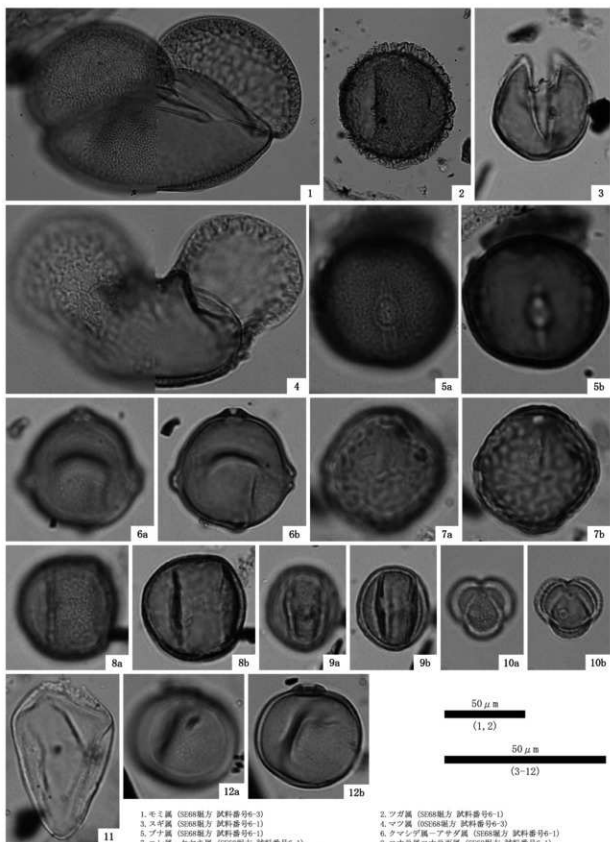


4. 砂分の状況(2地点 試料番号1)

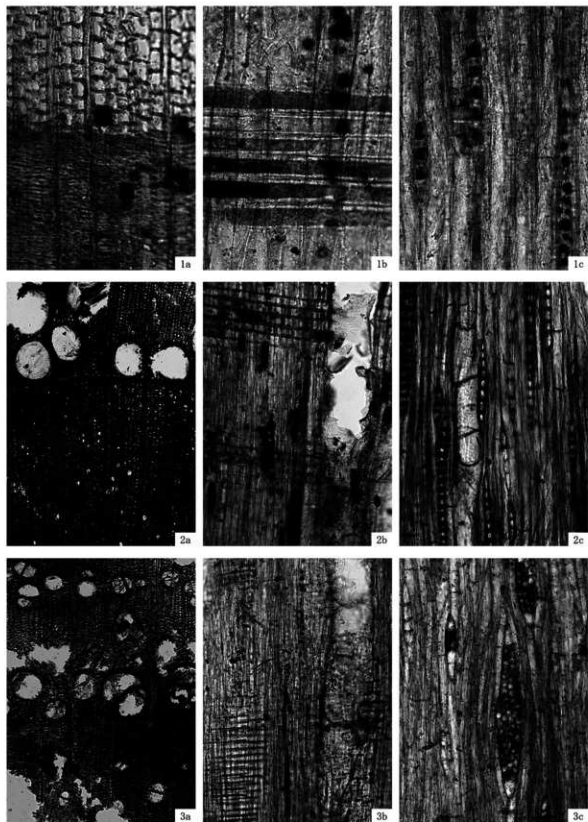
Pn: 軽石.



第213図 テフラ



1. モミ属 (SE68組方 試料番号6-3)
 2. ヌギ属 (SE68組方 試料番号6-1)
 3. ヌギ属 (SE68組方 試料番号6-3)
 4. ツナ属 (SE68組方 試料番号6-1)
 5. ツナ属 (SE68組方 試料番号6-1)
 6. ツナ属 (SE68組方 試料番号6-1)
 7. コナラ属 (SE68組方 試料番号6-1)
 8. コナラ属 (SE68組方 試料番号6-1)
 9. コナラ属 (SE68組方 試料番号6-1)
 10. コナラ属 (SE68組方 試料番号6-1)
 11. コナラ属 (SE68組方 試料番号6-1)
 12. コナラ属 (SE68組方 試料番号6-1)



1. スギ (SE71:木製品)
 2. 桐 (SE119:糸)

3. ヤマダツ (SE80:樹中の丸木)
 a:木口, b:板目, c:板目

100 μ m: a
 100 μ m: b, c

第215図 木材



第216図 S E 68掘方試料番号6の外観および試料採取位置

2 宮西遺跡（第4次調査）の自然科学分析

1 はじめに

本報告では、遺構や堆積層の年代観、近世頃の古環境の検討を目的として、自然科学分析を実施した。

2 試料

(1) 概要

試料は、トレンチ1、S D 52sp. B-B'（以下、S D 52 B地点）、中世の井戸跡であるS E 142北側の同遺構の確認面より上位の堆積層（以下、基本土層）が認められた地点より採取した土壌試料である。以下に、各地点の観察所見を記す。また、各地点の模式柱状図を第217図に示す。

(イ) トレンチ1

調査地点はトレンチ1の北壁に相当する。調査所見から近世（18世紀）頃の遺物包含層とされる層

準は、下位の灰色泥層上部を著しく擾乱するほか、黄灰色極細粒砂を基質とする偽礫（ブロック）などが混じる。

(ロ) S D 52 B地点

調査地点は、S D 52と調査区北壁が接する付近に設定されたB地点を対象としている。

(ハ) 基本土層

調査地点は、S E 142北側に相当し、同井戸跡の確認面を基底として地表面までの基本土層が認められる。

(2) 分析試料

上記した3箇所の調査地点からは、計12点の土壌試料を採取している（第217図）。なお、上述した観察所見から、当初分析対象とされた基本土層における花粉分析の産状は悪いと判断された。こ

の点や上述した分析目的などを踏まえ、珪藻、花粉および植物珪酸体などの微化石分析はトレンチ1壁の近世の遺物包含層（試料番号1）とS D52 B地点の溝跡埋積物下部（試料番号5）の2点を、テフラ分析はS D52 B地点の軽石様の碎屑物が混じる堆積物（試料番号3）と基本土層の近世遺物包含層下部（試料番号2）の2点をそれぞれ選択し、分析に供している。

3 分析方法

(1) テフラの検出・屈折率測定

1-2-(2)(イ)と同様の方法を用いた。

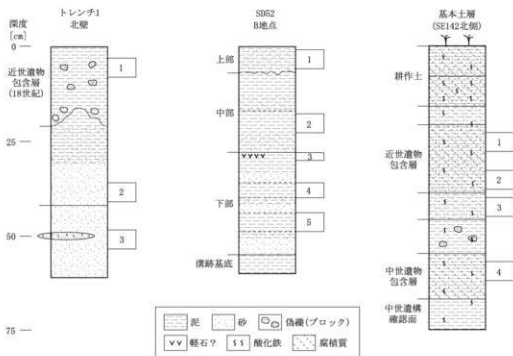
(2) 珪藻分析

湿重約5gをビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を4～5回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバ

ーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のブリュウラックスを滴下しスライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200個体が検出できた後は、示準種などの重要な種類の見落としがないように、全体を精査し含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot (2000)、Hustedt (1930-1966)、Krammer and Lange-Bertalot (1985-1991)、Desikachary (1987)などを参考にする。群集解析にあたり個々の産出化石については、塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類する。さらに、淡水生種については塩分、pH、水の流動性の3適応性で分け、表に示す。



第217図 各地点の模式柱状図および試料採取位置

(3) 花粉分析

1-2-(2) (ロ) と同様の方法を用いた。

(4) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プレパラツクスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤（2010）の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を乾土1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は100単位として表示し、100個/g未満は「<100」と表示する。また、各分類群の植物珪酸体含量を試料毎に図示する。

4 結果

(1) テフラの検出同定・屈折率測定含む

結果を第27表に示す。また軽石の屈折率測定結果を第218図に示す。以下に、結果を述べる。

(イ) SD52 B地点

試料番3は、スコリアは認められず^a、火山ガラスは極微量の無色透明の軽石型火山ガラスが認め

第27表 テフラ分析結果

地点名	試料番号	スコリア 量	火山ガラス		量	軽石	
			量	色調・形態		色調・発砲度	最大粒径
SD52 B地点	3	-	(+)	cl・pm	+	GW・sg ^b Gbr・sb (opt) W・b (ho)	2.0
基本土層	2	-	-	-	+	Gbr・sb (opt) ^c Gbr・sg (opt), W・b (ho)	2.5

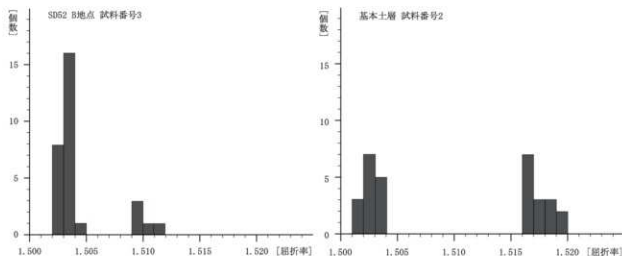
<凡例>

-:含まれない、(+):きわめて微量、+:微量。

GW:灰白色、Gbr:灰褐色、W:白色。

sb:やや不良、b:不良、sg:やや良好、最大粒径はmm。

cl:無色透明、pm:軽石型、(opt):斜方輝石珪酸体包有、(ho):角閃石珪酸体包有。



第218図 軽石屈折率

られたのみである。軽石は微量含まれ、最大径2.0 mm、灰白色で発泡やや不良のものが多く、次いで灰褐色で発泡やや不良のものが多く、白色で発泡不良のものが混在する。灰白色と灰褐色の軽石には斜方輝石の斑晶を包有するもの、白色の軽石には角閃石の斑晶を包有するものも認められる。

屈折率測定には、多く含まれる灰白色の軽石を用いた。屈折率は、n₁.502-1.504の低いレンジと、n₁.509-1.511の中間のレンジとに明瞭に分かれ、モードはn₁.503に鋭いピークを持つものとn₁.509前後の不明瞭なもの2つからなる。

軽石以外の碎屑物は砂粒が含まれる。砂粒の主体は、白色の斜長石粒で、無色～白色の石英を少量、有色鉱物として、斜方輝石、単斜輝石が微量。ほかに角閃石が極めて微量混在する。この他、安山岩の岩片が多く、頁岩の岩片が極めて微量混在しており、安山岩は新鮮な斜長石斑晶を包有されるものも認められる。岩片の最大径は1.0mmを測る。

(ロ) 基本土層

試料番号2は、スコリアおよび火山ガラスは認められない。軽石は微量含まれ、最大径は2.5mm、灰褐色で発泡やや不良のものが多く、ついで灰褐色で発泡やや良好のもの、白色で発泡不良のものが混在する。灰褐色の軽石には発泡やや良好、発泡やや不良ともに斜方輝石の斑晶を包有するものが見られる。白色の軽石には、角閃石の斑晶を包有するものも認められる。

屈折率測定には、もっとも多く含まれる灰褐色と白色の軽石を用いた。屈折率は、n₁.501-1.503の低いレンジと、n₁.516-1.519の高いレンジに明瞭に分かれる。モードは2つであり、n₁.502およびn₁.516である。

軽石以外の碎屑物は砂粒が含まれる。砂粒の主体は上記した試料と同様であるが、斜方輝石や単斜輝石より角閃石の方が多い。この他、安山岩の岩片が多く、頁岩、砂岩、チャート、凝灰岩など

の岩片が極めて微量混在する。安山岩は、新鮮な斜長石斑晶を包有されるものも認められる。岩片の最大径は1.4mmを測る。

(2) 珪藻分析

結果を第28表、第219図に示す。トレンチ1の試料番号1およびS D52B地点の試料番号5の2試料は、いずれも比較的多くの珪藻化石が含まれており、150個体以上が検出される。いずれも半壊した殻が認められ、化石殻の保存状態は不良である。検出された分類群は、ともに淡水生種を主とする組成であり、淡水生種以外は汽水生種や淡水～汽水生種が極低率に認められたのみである。珪藻の3適応性（塩分・pH・流水に対する適応性）も同様であり、貧塩-不定性、好アルカリ性、流水不定性種、陸生珪藻が優占する。

特徴的に認められた種は、淡水生種で陸生珪藻の*Amphora montana*, *Hantzschia amphioxys*, *Luticora mutica*, 流水不定性種の*Gomphonema parvulum*, *Lemnicola hungarica*, *Nitzschia amphibia*である。

(3) 花粉分析

結果を第29表、第220図に示す。花粉化石の産状は、試料によって大きく異なる。トレンチ1の試料番号1は、花粉化石がほとんど検出されず、わずかにクリ属とイネ科それぞれ1個体が産出したのみである。一方のS D52B地点の試料番号5は花粉化石が豊富に産出し、保存状態も比較的良好である。木本花粉ではツガ属、マツ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属、ガマズミ属が多く産出し、クマシデ属-アサダ属、カバノキ属、ブナ属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属、エノキ属-ムクノキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、バラ科などが多く認められる。またガマ属、ヘルムシロ属、イボクサ属、ミズアオイ属、サンショウモなどの水湿

第28表 珉藓分析結果

種 類	生態性			環境 指標種	トレンツク ¹⁾ 出現点	
	塩分	pH	流水		1	2
<i>Nitzschia obtusa</i> var. <i>multifloriformis</i> Grunow	hsh			h2	1	-
<i>Cyrtotelia mediana</i> Greville	hsh-hsh	al-11	l-hi	h2	1	-
<i>Nevicula vinosa</i> (Ehr.) Balfo	hsh-hsh	al-11	ind	h2	1	-
<i>Nitzschia pulva</i> (Kuetz.) W.Smith	hsh-hsh	ind	ind	5	-	8
<i>Rhopodia gibberula</i> (Ehr.) Mueller	hsh-hsh	al-11	ind	0	-	2
<i>Achnanthes inflata</i> (Kuetz.) Grunow	hsh-ind	al-11	r-ph	7	1	-
<i>Achnanthes japonica</i> H.Kobayasi	hsh-ind	al-11	r-hi	J,T	2	-
<i>Achnanthes rostrata</i> Oestrup	hsh-ind	al-11	r-ph	0	-	1
<i>Ampyura mutans</i> Kraske	hsh-ind	ind	ind	h2	17	7
<i>Galoneis anophila</i> Bock	hsh-ind	al-11	ind	h2	-	1
<i>Cocconeis</i> spp.	hsh-unsh	unsh	unsh	1	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Grev. ex Kuetz.) Van Heurck	hsh-ind	al-11	ind	7	2	-
<i>Cymbella targuiana</i> Grunow	hsh-ind	al-11	r-ph	K,T	1	-
<i>Encyonema silosianum</i> (Bleisch in Rabenh.) D.G.Wenn	hsh-ind	ind	ind	7	1	-
<i>Epithemia targuiana</i> (Ehr.) Kuetzing	hsh-ind	al-11	l-ph	7	-	1
<i>Frugilaria alba</i> (Nitzsch) Lange-Bertalot	hsh-ind	al-11	ind	0, U	3	-
<i>Frugilaria</i> spp.	hsh-unsh	unsh	unsh	1	-	-
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwaites) De Toni	hsh-ind	al-11	ind	0	4	6
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	hsh-ind	al-11	l-ph	0, U	-	1
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.) Kuetzing	hsh-ind	ind	ind	0	7	9
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	hsh-ind	ind	l-ph	7	-	1
<i>Gomphonema</i> spp.	hsh-unsh	unsh	unsh	1	-	27
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	hsh-ind	al-11	ind	h2, U	29	-
<i>Hantzschia amphioxys</i> var. <i>capitata</i> Muller	hsh-ind	al-11	ind	h2, U	3	1
<i>Lamnicola hungarica</i> (Grun.) Round & Basson	hsh-ind	al-11	ind	0	6	16
<i>Laticola metica</i> (Kuetz.) D.G.Wenn	hsh-ind	al-11	ind	h2, S	17	23
<i>Nevicula confervacea</i> (Kuetz.) Grunow	hsh-ind	al-hi	ind	h2, S	7	18
<i>Nevicula costata</i> Grunow	hsh-ind	al-11	ind	h2, T	7	13
<i>Nevicula costata</i> f. <i>dicapsa</i> (Arn.) Hustedt	hsh-ind	al-11	ind	h2, T	1	5
<i>Nevicula cryptocapula</i> Kuetzing	hsh-ind	al-11	ind	0	1	-
<i>Nevicula minima</i> Grunow	hsh-ind	al-11	ind	0	-	1
<i>Nevicula metica</i> var. <i>ventricosa</i> (Kuetz.) Cleve	hsh-ind	al-11	ind	h2	-	1
<i>Nevicula alpina</i> Hustedt	hsh-unsh	unsh	ind	h2	-	12
<i>Neidium capillatum</i> (Ehr.) Krammer	hsh-ind	ind	l-ph	0	1	-
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	hsh-ind	al-hi	ind	5	13	8
<i>Nitzschia debilis</i> (Arn.) Grunow	hsh-ind	al-11	ind	h2, U	-	3
<i>Pinnularia brassii</i> (Cleve) Cleve	hsh-hsh	al-hi	l-ph	5	2	-
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>dissectilis</i> H.Kobayasi	hsh-hsh	al-11	ind	0	1	-
<i>Pinnularia microtaurova</i> (Ehr.) Cleve	hsh-ind	al-11	ind	5	-	3
<i>Pinnularia obscura</i> Kraske	hsh-ind	ind	ind	h2	-	12
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	hsh-ind	al-11	ind	h2, S	4	1
<i>Pinnularia viridiformis</i> Krammer	hsh-ind	ind	ind	N, O, U	-	1
<i>Pinnularia</i> spp.	hsh-unsh	unsh	unsh	1	7	-
<i>Pinnithidium lanceolatum</i> (Grev. ex Kuetz.) Lange-Bertalot	hsh-ind	ind	r-ph	K, T	-	1
<i>Reimera sinuata</i> (Grev.) Kociolok et Stoermer	hsh-ind	ind	r-ph	K, T	1	2
<i>Rhopodia gibba</i> (Ehr.) Mueller	hsh-ind	al-11	ind	0, U	12	-
<i>Selliophora americana</i> (Ehr.) D.G.Wenn	hsh-ind	al-11	l-ph	5	1	-
<i>Selliophora laeviflora</i> (Kuetz.) D.G.Wenn	hsh-ind	ind	ind	5	1	-
<i>Selliophora pupula</i> (Kuetz.) Merschowsky	hsh-ind	ind	ind	5, U	2	2
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	hsh-ind	ind	ind	7	-	1
<i>Stauroneis nobilis</i> Schumann	hsh-hsh	al-11	ind	0	-	1
<i>Stauroneis obtusa</i> Lagerst.	hsh-ind	ind	ind	h2	1	7
<i>Stauroneis</i> spp.	hsh-unsh	unsh	unsh	0	-	1
<i>Sarcitella ovata</i> var. <i>pinuata</i> (W.Smith) Hustedt	hsh-ind	al-11	r-ph	0	-	1
<i>Sarcitella</i> spp.	hsh-unsh	unsh	unsh	0	-	1
海水生態					0	0
海水～汽水生態					0	0
汽水生態					1	0
淡水～汽水生態					2	10
淡水生態					155	197
珉藓化石総数					158	207

凡例

[適応性]

塩分:塩分濃度に対する適応性	pH:水素イオン濃度に対する適応性	流水:流水に対する適応性
Esh: 海水生態	al-hi: 真アルカリ性種	l-hi: 真流水性種
Esh-hsh: 海水生態-汽水生態	al-11: 好アルカリ性種	l-ph: 好流水性種
Msh: 汽水生態	ind: pH不定性種	ind: 流水不定性種
Osh-Msh: 汽水生態-汽水生態	al-11: 好酸性種	r-ph: 好淡水性種
Osh-hi: 貧塩好酸性種	al-hi: 真酸性種	r-hi: 真淡水性種
Osh-ind: 貧塩不定性種	unsh: pH不明種	unsh: 流水不明種
Osh-hsh: 貧塩好酸性種		
Osh-unsh: 貧塩不明種		

[環境指標種]

A: 内湾指標種, B: 内湾指標種, C: 海水藻類指標種, C2: 汽水藻類指標種, D: 海水砂質干潟指標種, D2: 汽水砂質干潟指標種, E: 海水乾葉干潟指標種, E2: 汽水乾葉干潟指標種, F: 淡水藻類指標種 (以上, 小杉, 1980), G: 淡水砂質干潟指標種, H: 河口指標種, J: 上流性河川指標種, K: 中～下流性河川指標種, L: 下流性河川指標種, M: 湖沼指標種, N: 湖沼指標種, O: 湖沼指標種, P: 湖沼指標種, Q: 湖沼指標種 (以上, 安藤, 1990), R: 好酸性種, S: 好酸性種, T: 好酸性種 (以上, Arai and Kawanabe, 1990), U: 陸生珉藓

Osh: 湖沼指標種, R: 湖沼指標種, S: 湖沼指標種, T: 湖沼指標種 (以上, Arai and Kawanabe, 1990)

第29表 花粉分析結果

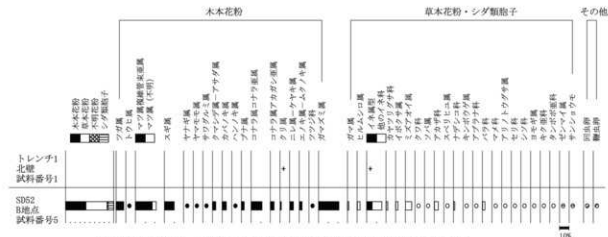
種 類	トレンチ1 北壁		SD62 B地点
	1	5	5
木本花粉			
フタバ属	-	16	1
ウツヒ属	-	1	1
マツ属(常緑葉実)	-	35	1
マツ属(不明)	-	9	1
スギ属	-	21	2
ササ属	-	1	1
ヤマモモ属	-	1	1
ヤブグルミ属	-	1	1
タマシツ属-アサダ属	-	7	1
カバノ木属	-	9	1
ハンノ木属	-	2	1
ブナ属	-	6	1
コナラ属	-	23	1
コナラ属アカガシ属	-	8	1
クリ属	1	3	1
ニレ属-ケヤキ属	-	8	1
エノキ属-ムクノキ属	-	6	1
ツツジ科	-	2	1
ガマズミ属	-	43	1
草本花粉			
ガマ属	-	7	1
ヒルムシロ属	-	15	1
イネ属	-	28	1
他のイネ科	1	49	1
カヤフリダク科	-	9	1
イボクサ属	-	12	1
ミズアオイ属	-	32	1
タワ科	-	3	1
ソバ属	-	1	1
アカサ科	-	21	1
スベリヒユ属	-	13	1
ナデシコ科	-	7	1
キンボク属	-	1	1
アブカサ科	-	4	1
ハクサ科	-	1	1
マメ科	-	1	1
アリノトウグサ属	-	3	1
セリ科	-	1	1
ソウジ科	-	2	1
ヨモギ属	-	2	1
キク亜科	-	3	1
タンポポ亜科	-	3	1
不明花粉			
不明花粉	1	8	1
シダ類胞子			
ゼンマイ属	-	1	1
サンショウモ	-	1	1
他のシダ類胞子	-	56	1
合 計			
木本花粉	1	203	1
草本花粉	1	216	1
不明花粉	1	8	1
シダ類胞子	0	58	1
合計(不明を除く)	2	477	1
その他			
昆虫群	-	1	1
植物群	-	2	1

識別された。屈折率も2試料において、それぞれで2つのレンジが認められた。これらの結果から、上記した軽石はそれぞれ異なるテフラに由来すると考えられる。

本分析で確認された軽石のうち、灰白色の軽石は発泡度および斜方輝石の斑晶を包含することから、江戸時代の天明三(1783)年に浅間火山から噴出した浅間Aテフラ(A s-A;新井, 1979)に由来すると考えられる。軽石の屈折率のうち、n1.509-1.511の中間のレンジの値は町田・新井(2003)によるA s-Aの値にほぼ重なる。

次に、灰褐色で発泡やや不良の軽石は、色調と発泡度および斜方輝石の斑晶を包含することより、平安時代の天仁元(1108)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(A s-B;新井, 1979)に由来すると考えられる。ただし、屈折率は町田・新井(2003)に示されたA s-Bに該当する高屈折率の値が計測されず、検討の余地が残る。

また、灰褐色で発泡やや良好の軽石は、色調と発泡度および斜方輝石の斑晶を包含することから、4世紀前半に浅間火山から噴出した浅間Cテフラ(A s-C;新井, 1979)に由来すると考えられる。軽石の屈折率のうち、n1.516-1.519の高いレンジの値は町田・新井(2003)でのA s-Cの値にほぼ重なる。



木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。○●は1%未満、+は木本花粉100個未満の試料において検出された種類を示す。

第220図 主要花粉化石群集

第30表 植物珪藻体含有量

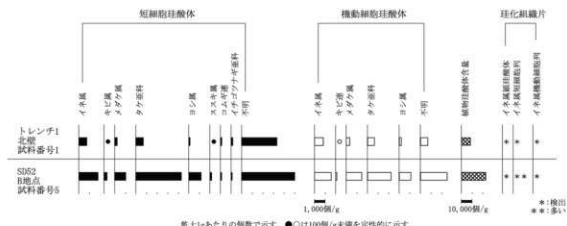
分類群	(個/g)	
	トレンチ1 北壁	S52 B地点
	1	5
イネ科葉部短細胞珪藻体		
イネ属	800	1,800
キビ属	<100	300
メダケ属	300	1,100
タケ茎科	700	4,200
ヨシ属	100	1,200
ススキ属	<100	200
コムギ近	100	100
イネゴツナギ草科	200	100
不明	3,300	5,000
イネ科葉身機能細胞珪藻体		
イネ属	800	1,600
キビ近	<100	100
メダケ属	300	1,500
タケ茎科	700	2,200
ヨシ属	200	1,100
不明	700	2,500
合計		
イネ科葉部短細胞珪藻体	5,700	14,100
イネ科葉身機能細胞珪藻体	2,900	9,100
植物珪藻体含有量	8,600	23,200
珪化組織片		
イネ属短細胞体	*	**
イネ属短細胞列	*	**
イネ属機能細胞列	*	**

「<100」:100個/g未満
 -:未検出、* :検出、** :多い

白色の軽石は、色調や発泡度、角閃石の斑晶を含有すること、さらにn1.501-1.504の値のレンジに収まる低い屈折率により、古墳時代に榛名火山から噴出したテフラである榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-F A)または榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-F P)(新井, 1979; 早田, 1989)のいずれかに由来すると考えられる。Hr-F Aは火砕流の噴出を主体とする活動であり、分布域は給源から東方に広がり、遠隔地では細粒の火山ガラスを含むことを特徴とする。Hr-F Pは軽石噴火を主

体とする活動であり、その分布軸は北東方向に向いており、遠隔地においても軽石として認められている(早田, 1989)。今回の白色軽石は、Hr-F Aに伴う細粒の火山ガラスがほとんど認められないことや屈折率が町田・新井(2003)のHr-F Pとほぼ一致することから、Hr-F Pに由来する可能性もある。テフラの噴出年代は、Hr-F Aが5世紀末から6世紀第1四半期ぐらいまで(坂口, 1993; 下司・大石, 2011)、Hr-F Pが6世紀後半から7世紀初頭(坂口, 1993; 下司・大石, 2011)にそれぞれ噴出したとされている。

以上の状況から、S D52 B地点の試料番号3は、As-Aが最も多く、次いでAs-B、Hr-F A/F Pが含まれると考えられる。なお、現地での観察では軽石様の碎屑物がレンズ状に堆積する状況が確認されているものの、いわゆる降下堆積層としては認められなかった。したがって、As-Aは、溝跡埋積物下部が形成された段階には降灰していたと考えられる。また、基本土層の近世遺物包含層下部には、As-BとともにAs-CやHr-F P/F Aなどの軽石が含まれると考えられる。分析対象とした層準は、中世遺物包含層より上位に相当することやAs-Aが認められないという軽石の産状から、中世以降As-A降灰以前の18世紀後半以前と推定される。



乾土1gあたりの個数を示す。●○は100個/g未満を定性的に示す。

第221図 植物珪藻体含有量

(2) 堆積環境

トレンチ1近世遺物包含層やSD52B地点の埋積物下部の試料番号5における珪藻化石群集は、いずれも陸生珪藻の多産(60%前後)によって特徴付けられた。陸生の*Hantzschia amphioxys*、*Amphora montana*、*Luticora muticalis*は、水中や水底以外の大気に接触した環境(例えばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など)に生活する一群(小杉、1986)であり、特に離水した場所の中で乾燥に耐えることのできる群集に見られる(伊藤・堀内、1989;1991)。また堆積物中にこれら種群が優占(70~80%以上)すれば、堆積した場所は水域以外の、空気に曝されて乾いた環境と推定できる。

また、陸生珪藻に次いで多く見られた流水不定性種のうち、*Lemnicola hungarica*は付着性で池や流れの弱い川などで浮葉植物の葉に付着して生育する場合が一般的である。中汚濁耐性種(小林ほか、2006)とされ、水田からも特徴的に出現する(田中、2002)ことから、概ね沼沢湿地性の種と考えられる。*Gomphonema parvulum*は流水に対して不定なだけでなく、塩分濃度やpHに対しても不定であり、極めて高い適応能力を持ち、様々な水域に認められる。そのため、Asai and Watanabe (1995)は広域適応種としている。*Nitzschia amphibia*は淡水域でも水の出入りが少なく淀んだ水域に生育していることが多く、Asai and Watanabe (1995)は好汚濁性種としている。

以上の点から、調査区西側の近世遺物包含層やSD52B地点の埋積物下部は同様な堆積環境であったと考えられる。すなわち、後背湿地~低地部に見られる沼沢湿地の環境下にあったが、地下水位の低下などによって好気的環境に移行したと推定される。またSD52ではある程度の水深のある池のような止水域に特徴的にみられる種は認められなかったため、定常的に水を湛えた状況とは

考えにくい。なお、陸生珪藻が多い点は溝内が好気的環境にあった、あるいは当時の地表面などの好気的環境からの混入などが推定されるが、埋積物の観察所見などを踏まえると、後者の影響が高いと考えられる。さらに、同溝跡の花化石群集では、水湿地生の草本や孢子類が確認されており、これらが生育できるような環境であったと思われる。

(3) 古植生

SD52B地点の埋積物下部(試料番号5)における花粉化石群集は、木本類ではツガ属、マツ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属、ガマズミ属が多く産出し、この他にクマシデ属アサダ属、カバノキ属、ブナ属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ケヤキ属、エノキ属ムクノキ属なども確認された。

これらの分類群のうち、多産したマツ属は、亜属まで同定できたものは、すべてマツ属複雑管束亜属であった。マツ属複雑管束亜属(いわゆるニヨウマツ類)は、伐採地や崩落地に先駆的に進入する種類である他、有用材として植林されてきた種類であることから、二次林や植林に由来すると思われる。また、ブナ属やツガ属、トウヒ属、スギ属などは後背の山地などに分布する森林植生に由来すると考えられる。また、コナラ亜属は山地下部や低丘陵地、比較的安定した微高地などの二次林を反映していると考えられ、アカガシ亜属なども混交していたと推定される。

このほか、ニレ属ケヤキ属をはじめとして、ヤナギ属、サワグルミ属、クマシデ属アサダ属、ハンノキ属、エノキ属ムクノキ属などは河畔などに分布した林分に由来すると考えられ、ガマズミ属やツツジ科などはこれらの林分の林縁に生育したと考えられる。なお、ガマズミ属は特に多産したことから、近傍に生育していた可能性が高い。次に、草本類では、イネ科、カヤツリグサ科、

アカザ科、バラ科などの開けた明るい場所に草地を形成する種群が認められた。これらは調査地周辺の草地環境を反映していると考えられる。なお、植物珪酸体結果を参考とすると、イネ科にはメダケ属を含むタケ亜科をはじめとして、ススキ属やイチゴツナギ亜科なども含まれていたと思われる。また、ガマ属、ヒルムシロ属、イボクサ属、ミズアオイ属、サンショウモなどの水湿地生草本・シダ類も確認され、湿潤な場所を好むヨシ属の植物珪酸体も産出した。これらの分類群は、おそらく溝跡内や付近の水湿地などに生育していたと考えられる。

なお、トレンチ1からは、花粉化石がほとんど検出されなかった。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている(中村, 1967; 徳永・山内, 1971; 三宅・中越, 1998など)。上述した珪藻分析結果などを考慮すると、本層は陸生珪藻の多産によって特徴付けられていることから、堆積後の経年変化などの影響を受けていると考えられる。

(4) 植物利用

上述した近世遺物包含層やSD52の花粉および植物珪酸体分析では、栽培植物のイネ(イネ属)に由来する花粉や植物珪酸体が検出された。

安定した稲作が行われた水田跡の土壌では、栽培されていたイネ属の植物珪酸体が土壌中に蓄積され、植物珪酸体含量(植物珪酸体密度)が高くなる。水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、

一般にイネの植物珪酸体(機動細胞由来)が試料1g当り5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われた可能性が高いと判断されている(杉山, 2000)。また、(中村, 1980b)によれば、イネ科花粉のうちイネ属の割合が30%以上を示すと、現在のような集約的稲作が近傍で行われていたとされているほか、イネの花粉は生産される花粉の1/4がもみ殻内に残留するとされている。

以上の点を踏まえ、今回の調査対象とした各地点のイネ属の機動細胞珪酸体含量についてみると、トレンチ1北壁の近世遺物包含層が800個/g、SD52(試料番号5)が1,600個/gであった。いずれの試料の含量も上記した判断の目安を下回ることから、調査地内において稲作が行われていた可能性を支持することは難しい。一方、イネに由来する花粉(イネ属型)の割合についてみると、SD52の埋積物下部では約35%と高率となる状況が認められた。この結果を考慮すると、調査地近傍において稲作が行われていた可能性や、イネの穎や葉部に由来する珪化組織片が検出されていることから、籾殻を含む植物体の廃棄や利用の痕跡を示している可能性が考えられる。

イネ属以外の栽培種についてみると、SD52B地点の埋積物下部からはソバ属花粉が産出したことから、周辺域でのソバ栽培が推定される。また、植物珪酸体では栽培種を含むキビ属やコムギ属もわずかに産出した。これらは野生種との区別が困難であるが、栽培種に由来するものであれば、キビやムギ類の利用が想定される。